

財 団 法 人 東 洋 文 庫 年 報

昭 和 53 年 度

財 団 法 人 東 洋 文 庫

財団法人 東洋文庫年報 昭和53年度

目 次

I 昭和53年度の東洋文庫	3
II 図書事業	5
1. 図書の収集・整理と閲覧	5
2. 図書資料の整理と閲覧	5
3. 資料複製増刷サービス	7
III 研究事業	8
1. 調査研究	8
i 文部省科学研究費による調査研究	8
ii 一般調査研究	10
iii 特別調査研究	12
iv 研究委員会	13
2. 学術図書出版	14
3. 講演会	15
4. 研究会	16
5. 研究者養成	16
6. 国内・国外研究者への便宜供与	16
7. 職員の研究業績	17
IV 業務報告	28
1. 庶務報告	28
2. 人事報告	30
3. 会計報告	32

V 役職員名簿	38
1. 役員	38
2. 東洋学連絡委員会委員	39
3. 名誉研究員	39
4. 職員	40
5. 臨時職員	41

VI 財団法人東洋文庫附置

ユネスコ東アジア文化研究センター事業	42
1. 調査研究事業	42
2. 学术交流及びドキュメンテーション活動	46
3. 出版物の作成	49
4. 業務報告	52
5. 役職員名簿	55

I 昭和53年度の東洋文庫

昭和53年度の東洋文庫として特記すべきことは、名誉研究員カルルグレン (Bernhard Karlgren, 1889.10.9~1978.10.20)・ドゥミエヴィル (Paul Demiéville, 1894.9.13~1979.3.23) の両氏の相次ぐ逝去である。それぞれ支那語学・支那学の泰斗として世界の学界に令名の高かったこれら2大家は、1958年以来名誉研究員として東洋文庫の活動を温く見守っていて下さったが、共に90歳に近い長寿を保ち、偉大な足跡を印して世を去られたのである。本文の筆者はカルルグレン氏には終に相接する機会がなかったが、ドゥミエヴィル氏には1952年以来いく度か会って高論を聴くことが出来た。その温顔と高風とを想起して、うたた哀悼の念に堪えない。カルルグレン氏については、河野六郎博士の追悼録 (東洋学報, 第61巻第1・2号, 1979年12月, pp. 201~208) と第62回東洋文庫展示会目録 (昭和54年12月1・2日, pp. 24~25) とを、ドミエヴィル氏については、Jacques Gernet, Paul Demiéville (1894~1979), T'oung Pao, LXV, 1-3, 1979, pp. 1-9, accompagné d'un portrait, et d'une bibliographie additionnelle par Yves Hervouet, pp. 9~12 と同上展示会目録 (pp. 7~14) とを参照せられたい。

この年度の東洋文庫はまた研究員金子良太氏 (1928.8.4~1979.3.15) を失った。発病後僅か数日で急逝されたことは、平生頑健を誇っていた氏を知る者にとって、余りにも意外であり、残念なことであった。氏はチベット語文献の整理、東洋文庫欧文紀要の編集に、文字通り全力を注がれた。世界でも屈指のコレクションである東洋文庫のチベット語文献が今のように整理され、最近の何号かの欧文紀要が予定の期日に遅れることなく刊行せられたのは、全く氏の尽力の結果であって、感謝に堪えない。氏はチベット語を始め、尠からぬ外国語に堪能であったが、中でも英語に巧みで、誠に見事な英文を書いた。欧文紀要には氏の手になる翻訳が何篇か収められているが、単に原文の意味を正しく表現しているばかりでなく、英文として誠に美事なもので、敬服のほかない。氏の急逝が更めて惜まれる所以である。氏の逝去については「金子良太氏の訃」 (東洋学報, 第61巻第1・2号, 1979年12月, pp. 208~216) を見られたい。

こうした不幸な出来ごとを除いては、昭和53年度の東洋文庫とその附属機関との研究及びその成果の刊行、図書資料の蒐集整理公開に関する事業は、本文に記されている通りであって、特に例年と変わったところがない。それは或る意味では物足りないとも言えるが、また別の見方からすると、この上なく有難いことでもある。

何故有難いと言えば、この年度東洋文庫がともかくもその存在を続けることが出

来たからである。そしてそれが日本政府・東洋文庫維持会・三菱金曜会・三菱財団・日本船舶振興会からの援助に負うところが多いことを想起して、感謝の念を新たにす
る次第である。

東洋文庫は財団法人である。財団法人とは一定額の基本金があり、それから生ずる
果実でその機関の運営が行われる性質の組織である。大正13年11月19日それが設立せ
られた時の基本金は2百万円。東洋文庫はこの基本金から生ずる果実を以て、図書の
蒐集・整理・保存・公開、研究成果の刊行、講演会を通じての専門知識の普及、それ
らの事業の遂行に要する専任の人員の雇傭を行って来たのである。

戦前の東洋文庫は図書部と研究部との2部からなっていた。財団設立後15年を経た
昭和13年当時には、職員の総数31名。これに理事・監事・評議員12名を加えると、43
名に達した。そしてその年度の支出の合計は9万1千2百19円30銭であった。

これに対し、昭和53年度は、戦後それまでの図書部・研究部の2部制から総務を独
立させた3部制に変っているが、職員の総数は78名に上っている。このほかに、昭和
36年以来附置せられているユネスコ東アジア文化研究センターに職員として所長・副
所長以下(13名、所長・副所長等東洋文庫職員を兼ねる者4人を除くと実員)9名があ
り、関係の臨時職員7人をこれに加えると、実員16名に及んでいる。これと東洋文庫
の78名との合計94名が、財団法人東洋文庫の枠の中で日常実際に動いている総人数で
ある。実はこのほかに、理事・監事・評議員・東洋学連絡委員会委員・名誉研究員、
東アジア文化研究センターの運営委員・顧問・参与に70名を越える人々があるので、
これを右の94名に加えると、総計164名余となり、昭和13年の43名の4倍に近い数字
が得られる。これに対する昭和53年度の支出は2億1千2百57万7千円であるが、こ
れには国立国会図書館支部東洋文庫の職員として図書部に勤務している8人の人件費
が省かれているから、これを加えた総計は2億5千万を超えるであろう。これは昭和
13年の支出の2千5百倍に当る。

しかも、図書の蒐集、研究成果の出版は戦前のそれに及ばないのが実情である。研
究成果の出版について言えば、東洋文庫論叢・東洋文庫叢刊の刊行を停止せざるを得
なくなってから、已に年久しい。これは要するに経済界の変動について行くことが出
来なくなった結果である。2億5千万の年収を確保するためには、少なくとも20億の基
金が必要である。さらに事業を戦前の規模にまで戻そうとすれば、それ以上の基金が
必要であるが、仮にそうした額の基金があっても、変動の激しい経済界の事情を考え
ると、果して何年同じ規模の事業を遂行できるか疑問である。

どうしたら東洋文庫の存続が期待出来るか。それについて根本的に考えることが、
今後の課題である。

II 図書事業

1. 図書の収集・整理と閲覧

購入・交換・受贈によって収集した資料は、一般文献資料のほか、特に中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料があり、昭和53年度末現在の蔵書数は596,506冊となった。

・資料購入

	和漢書	洋書	複写資料	計
一般文献資料	135	226		361
中央アジア特別研究資料		570	4リール	574
東アジア特別研究資料	1,416	331	5リール	1,752
西アジア特別研究資料		1,189		1,189
計	1,551冊	2,316冊	9リール	3,876

・資料交換

	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋書	計	国内	国外	計
単行本	1,153冊	382冊	1,535冊	1,183冊	954冊	2,137冊
定期刊行物	2,593	918	3,511	454	599	1,053
計	3,746	1,300	5,046	1,637	1,553	3,190

2. 図書資料の整理と閲覧

・製本数量内訳

本年度の製本施工数量は下記の通りである。

	単行本	定期刊行物	複写資料製本	複写資料製帙	その他
数量(冊)	19	376	550	129	179

・図書利用状況

本年度の所蔵図書の利用状況ならびに内訳は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧者数	一日平均	昨年同月との比 (△印は減)	閲覧書数	一日平均	昨年同月との比 (△印は減)
	日	人	人	人	冊	冊	冊
4	23	338	14強	12	5,055	219強	750
5	24	479	20弱	89	5,310	222弱	△197
6	25	460	19弱	104	6,727	269強	2,316
7	25	512	21弱	1	6,760	271弱	617
8	26	572	22	41	7,061	272弱	△2,135
9	23	529	23	43	7,242	315弱	1,206
10	24	514	21強	△12	6,320	264弱	△1,145
11	21	424	20強	△125	6,175	294強	△2,273
12	22	414	19弱	19	5,104	414弱	△102
1	21	269	13弱	△6	4,362	208弱	207
2	22	287	31強	△28	4,710	214強	△1,068
3	25	335	13強	△72	4,718	189弱	△708
計	281	5,133			69,544		

・閲覧図書数内訳

月	和 書		漢 書		洋 書		合 計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
4	159	308	660	4,246	326	501	1,145	5,055
5	331	536	863	4,238	290	536	1,484	5,310
6	353	673	922	5,642	267	412	1,542	6,727
7	270	547	1,142	5,363	395	650	1,807	6,760
8	408	820	1,133	5,816	259	429	1,800	7,061
9	429	794	988	6,035	225	413	1,642	7,242
10	389	629	1,011	5,339	213	352	1,613	6,320
11	269	464	937	5,319	246	392	1,452	6,175
12	287	567	661	3,969	265	568	1,213	5,104
1	259	899	448	2,941	280	522	987	4,362
2	382	1,519	436	2,749	267	442	1,085	4,710
3	213	555	577	3,385	427	778	1,217	4,718
計	3,749	8,311	9,778	55,042	3,460	5,995	16,987	69,348

3. 資料複製増刷サービス

国内外の研究者・研究機関の閲覧・利用の便に供するために行なったもので、実績は下記の通りであった。

・マイクロ・フィルム

申込件数	撮影齣数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
960	226,033	209,784	140,407

・電子複写

申込件数	撮影枚数
1,751	123,349

Ⅲ 研究事業

1. 調査研究

調査研究は、文部省科学研究費補助金によるものと、文部省民間学術研究機関補助金による一般・特別調査研究とにわかれる。

i 文部省科学研究費による調査研究

一般研究 A

【課題】 中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究

【期間】 昭和53年度（3カ年継続第2年度）

【目的】 東アジアにおける現代の国際情勢を理解するためには、東アジア近代国際関係史の研究に必要な外交文書、新聞、雑誌、その他の関係資料を収集・整理し、これら資料の書誌的研究を行ない、収集資料ならびに研究成果を公開公表して、国内外における国際関係史の研究を推進することを目的とする。

【事業】 (1)19世紀中葉以降、中国で欧米人が発行していた新聞である“Ostasiatische Lloyd” (Shanghai, 1891—1915, 1936—41の34リール収集済) について、変動する中国の情勢に対して欧米諸国がどのように反応したかを知るうえで重要な資料であるとの観点から、その編集の立場はどのようなものか、そこに扱われている記事は資料として、どの程度の信頼性をもっているかなどに関して検討を加えた。

(2)このほか、書誌的検討を加えて収集した資料は、図書資料：“Catalogs of the Asia Library, the University of Michigan; Ann Arbor” 25冊を含む計110冊、マイクロ・フィルム資料：「大日本紡績聯合会月報」（明治25—昭和17年）等46リールを含む計106リールである。

(3)購入した資料は、いずれもカード目録を作成し、広く一般の研究者も利用できるよう準備した。

【代表者】 榎 一雄

【分担者】 統括：榎 一雄

社会・文化班：榎 一雄、神田信夫

法と政治班：坂野正高、滋賀秀三

経済班：山根幸夫、田中正俊

総合研究(A)―〔辻班〕

【課題】 仏典翻訳の対照意味論的研究

【期間】 昭和53年度（3カ年継続初年度）

【目的】 本研究は、漢語(漢)、チベット語(藏)、西夏語(西夏)、ウイグル語(回)、モンゴル語(蒙)、満洲語(満)、朝鮮語(朝)の翻訳仏典における仏教用語を主たる対象として、それらの文化的語彙が一言語から、異なる文化を担い、異なる語彙体系をもつ他の言語へとどのように翻訳されたかを文法構造等との関連において、対照意味論的に分析・研究して、上記諸言語及びサンスクリット語(梵)それぞれの意味的構造の特徴の一端を明らかにすると同時に、言語接触ひいては文化接触における干渉の様態に関する研究、さらには個々の翻訳仏典の推定等に関する文献学的研究に基礎的資料を提供することを目的とする。

【事業】 (1)梵語、藏語、漢語、西夏語、回語、蒙古語、満洲語、朝鮮語相互間の仏教用語対訳語彙集及び研究文献を収集し、整備した。

(2)仏典翻訳の対照意味論的研究のケース・スタディの対象として、「法華經普門品觀音經」を選定し、同資料の梵本10本、藏訳5版、漢訳3本、日本語訳3本の異同を調査し、それ等の比較対照テキスト表のベースを作成した。

(3)同資料の翻訳過程を考慮し、まず梵・藏語、梵・漢語等の各二言語間のテキスト分析に着手した。

(4)傍証的資料となる「中論」についても、梵本、その漢訳、藏訳を整備し、分析に着手した。

【代表者】 辻 直四郎

【分担者】 総括・サンスクリット語：辻 直四郎

サンスクリット語・仏教学：立川武蔵

漢語・仏教学：金岡照光

チベット語：北村 甫，山口瑞鳳

チベット語・仏教学：金子良太，原田 覚

西夏語・漢語：西田龍雄

ウイグル(回)語：護 雅夫，庄垣内正弘

蒙古語・漢語：河野六郎

朝鮮語：大江孝男

総合研究(A)―〔田川班〕

【課題】 李朝に於ける地方自治組織並びに農村社会経済語彙の研究

【期間】 昭和53年度（2カ年継続初年度）

【目的】 本研究は、朝鮮李朝農村の社会的、政治的研究を目指すものである。

従って、従来の調査により明らかとなった士族自治の組織の活動、及びその歴史的質的変遷の調査を深めると共に、士族郷任と、そのもとに階層的に存在した郷吏、庶民、官奴碑の官属としての職役の実情を明らかにし、併せて国法の外に地域毎に行われた自治的慣習法として制せられた諸税法及び雑役即ち労役の内容を究明することを目的とする。また、以上の問題と併行して、法制用語の外に地域農村社会に使用された慣習法上の用語、農村語彙等の意義を闡明にしようとするものである。

【事業】 (1)本研究の目的に沿って、各専門分野に従い、地方門閥士族自治の組織〔座首・別監(留郷所)]の活動、組織の史的変遷、及び地方行政機構の下部組織である記・官・書員・通引・官政らの官属や、留郷所以下郷任の職役について、さらに17・18世紀の税制改革について、研究会等を通じて詳細に検討した。

(2)社会経済語彙の蒐集調査は、目下なお継続中であるが、先に公刊した『経国三典語彙集覧』に続けて、17・18世紀の法令集『新補受教輯録』について、その詳細な語彙を採録してカード化を完了した。

(3)本研究の基礎をなす史料、並びに参考文献の蒐集は、総数270部、744冊に及び、史料は、主として韓国・米国の所蔵機関よりマイクロ・フィルム、計74リールを購入し焼付製本し、広く一般の研究者も利用できるようにした。

【代表者】 田川孝三

【分担者】 総括・農村社会経済語彙の蒐集：田川孝三

地方行政組織の調査・研究：末松保和、武田幸男、長 正統、北村秀人、
平木 實

農村社会経済語彙の蒐集と言語学的調査・研究：中村 完、菅野裕臣、
志部昭平

ii 一般調査研究

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】 梅原末治評議員(京都大学名誉教授)の寄贈にかかる東亜考古学資料(写真、実測図、拓本、野帖等)の整理とその目録の作成。(特に、日本の部を含む東亜の部の青銅器資料の整理とその目録の作成を行う。)(前年度の継続)(作成中)

古代史研究委員会

【資料の整理・編集】 東洋文庫所蔵中国画像名、造像名、墓碑銘等拓本の研究整理。

唐代史研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】(1)国内国外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロ・フィルムによるその収集・整理。

(2)内外の諸機関、研究者に対する既収集敦煌文献資料の公開、情報の提供(小冊子形式による目録・作成済)

(3)敦煌吐魯番等漢文文献による『唐代法制史料集』(写真編・解説編[中国文・英文])の研究・編集・刊行(写真編・刊行済)

(4)内陸アジア出土古文献研究会の開催。(以上・前年度の継続)

第1回 5月27日 山本達郎・兜木正亨・池田温「敦煌文書関係の出版物等についての紹介・コメント」

第2回 10月21日 護 雅夫「新疆の旅」(スライド使用)

(5)唐代詔勅類の収集・研究・整理と編集(『唐代詔勅目録稿』・編集中)

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究及び情報活動】(1)『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の増補並びに語彙の研究。(編集中)

(2)宋代研究文献目録及び速報の作成。(前年度の継続)

明代史研究委員会

【講読・研究】「海瑞集」を主として、明代社会制度に関する文献の購読・研究。(毎月2回研究会の開催)

近代日本研究委員会

【資料の収集・研究】近代化における欧米列強と東アジアないし日本との国際関係、および近代日本と大陸諸民族との国際関係について、国際政治のみならず、国際経済の資料をも収集し、これらの世界史的性格を総合的に研究する。(前年度の継続)

清代史(満洲・蒙古)研究委員会

【校訂本・訳註の作成】(1)「旧満州檔」・「満文老檔」記事対照表の作成。

(2)「年羹堯奏摺」(満文)の訳註。

朝鮮研究委員会

【資料の収集・研究】(1)朝鮮法制書の調査収集、およびその購読。

(2)李氏朝鮮の民政関係史料の収集・整理・研究。(前年度の継続)

(3)漢字の朝鮮音韻の研究・調査。

中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・研究】(1)隊商貿易史の研究。

(2)中央アジア・トルコ諸民族史の研究。

(3)イスラム社会の構造の研究。

(4)トルコ・日本両国の近代化の比較研究。

(5)イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。

第1回 4月28日 加納弘勝「イランの都市—最近のハマダンとマライエー」

第2回 5月26日 竹田 新「イブン・ホルダーズベの諸道と諸国の書について」

第3回 6月30日 私市正年「イブン・トワーマルトによるムワッヒド集団の組織化について」

第4回 7月21日 松原正毅「トルコのむらの宗教について」

第5回 11月10日 堀内 勝「アラビアの夜と昼」

第6回 12月8日 坂本 勉「19世紀イスファハーンのパーザールをめぐる諸問題」

第7回 1月26日 佐藤次高, 後藤 明, 永田雄三, 吉田順一 特別シンポジウム
「遊牧をめぐる諸問題」

第8回 2月23日 羽田亮一「初期サファヴィ朝の性格」

第9回 3月16日 山本太平「乾燥地農業と砂」

南方史研究委員会

【資料の研究・編集】(1)『東洋文庫所蔵インド関係欧文図書分類目録増補版』の編集(編集済)

(2)インド古代社会に関するサンスクリット語, パーリー語, 漢文資料を, マイクロ・フィルム, その他によって網羅的に収集し, その調査, 分類を行う。

iii 特別調査研究

チベット研究委員会

【目 的】チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究。

【研究課題】『チベット語文語辞典』の編纂。

【事業内容】(1)『チベット語文語辞典』編纂のための基礎的研究と基礎的作業。(進行中)

(2)チベット語文献の収集・整理(本年度は, 特にボン教関係文献33点を購入・整理した)

(3)研究成果の刊行

- ①『スタイン収集チベット語文献解題目録—第3分冊—』B5判 1冊 (刊行済)
- ②『Texts of Tibetan Folktales(I)』(『チベット民話資料集(I)』) B5判 1冊 (刊行済)
- (4)チベット研究会の開催
 - 第1回 6月3日 星 実千代：「チベットの民間信仰における龍について」
 - 第2回 12月2日 西岡祖秀：「gCad yul 派の基本典籍について」
- (5)東洋文庫所蔵サンسكريット写本及び文献分類目録の編集 (進行中)

近代中国研究委員会

【目的・研究課題】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの書誌的研究。

【事業内容】 (1)共同利用研究

国内外の研究者による専門研究について、実質的な討論及び研究状況に関する情報交換のため、本年度は、特に、日仏共同シンポジウムを開催した。〔期日：昭和53年10月7日(土)、場所：東洋文庫1階会議室、テーマ：近・現代中国社会経済史研究 参加者：Pierre—Etienne Will (フランス国立社会科学高等研究院研究員)、坂野正高・山根幸夫・田中正俊・鶴見尚弘 (以上東洋文庫研究員)、小山正明 (千葉大学教授)、等18名〕

(2)情報交換及び参考業務 (近代中国研究室及び参考図書室において、常時遂行中)

(3)図書・資料の収集

区 分	洋 書	和 漢 書	マイクロ・フィルム
数 量	181冊	1,145冊	106リール

(4)研究成果の刊行

- ①『近代中国研究彙報』の編集・刊行 A5判 1冊 (刊行済)
- ②『増補・東洋文庫所蔵近・現代中国関係図書分類目録(中文・和文)』(編集中)
- ③『東洋文庫所蔵近・現代中国関係資料件名目録』(進行中)
- ④『近・現代中国関係新聞雑誌総合目録』
- (5)その他の継続事業
 - ①中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究。
 - ②中国共産党史資料の書誌的研究。
 - ③『日本人の中国旅行記及び調査報告書の目録・附解題』の編集 (作成中)。
 - ④清末外交文書月例研究会の開催。

iv 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。

昭和53年度の各研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

第1部 中国研究

東亜考古学：梅原末治，小山 勲，関野 雄，渡辺兼庸

古代史：越智重明，宇都木 章，河野六郎

唐代史（敦煌文献）：榎 一雄，池田 温，菊池英夫，土肥義和，藤枝 晃，松本
明

宋代史：青山定雄，草野 靖，佐伯 富，周藤吉之，竺沙雅章，中嶋 敏，古垣光
一，渡辺紘良

明代史：田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫，川勝 守

近代中国：市古宙三，田中正俊，浜下武志，坂野正高，本庄比佐子，山根幸夫

第2部 近代日本研究

近代日本：岩生成一，田中時彦，鳥海 靖，亀井 孝，酒井憲二，小島幸枝

第3部 東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：榎 一雄，岡田英弘，神田信夫，松村 潤

朝鮮：河野六郎，末松保和，田川孝三，森岡 康

第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：榎 一雄，梅村 坦，後藤 明，薮 勇造，清水宏祐，志
茂碩敏，永田雄三，花田字秋，護 雅夫

チベット：榎 一雄，金子良太，川崎信定，北村 甫，原田 覚，松濤誠達，山口
瑞鳳，ツルチム・ケサン，テンパ・ゲルツェン

第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄，生田 滋，岩生成一，榎 一雄，後藤均平，辻 直四郎，松本
信広，三根谷 徹，山崎元一，山本達郎

2. 学 術 図 書 出 版

東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko.” No. 36. 1978年刊
B5判 291頁

東洋文庫和文紀要

- 『東洋学報』第60巻1・2号 昭和53年11月刊 A5判 245頁
『東洋学報』第60巻3・4号 昭和54年3月刊 A5判 256頁

東洋文庫各種委員会刊行物

古代史研究委員会

『東洋文庫所蔵甲骨文字』 昭和54年3月刊 B5判 136頁

チベット研究委員会

『スタイン収集チベット語文献解題目録—第3分冊—』 昭和54年3月刊 B5判 84頁

『Texts of Tibetan Folktales (I)』(『チベット民話資料集(I)』) 昭和54年3月刊 B5判 292頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第1号 昭和54年3月刊 A5判 141頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録—和書・中国書・朝鮮書—』第26号 昭和53年9月刊 B5判 69頁

『財団法人東洋文庫書報』第10号 昭和54年3月刊 A5判 119頁

『財団法人東洋文庫年報』昭和52年度版 昭和54年3月刊 A5判 55頁

『東洋文庫所蔵漢籍分類目録 経部』 昭和53年12月刊 B5判 86頁

『増補・東洋文庫朝鮮本分類目録』 昭和54年3月刊 B5判 219頁

3. 講演会

春期 東洋学講座 (第303~306回)

- 水田紀久「文房四友印記」(5月30日)
酒井憲二「伴 信友管見」(6月6日)
梅谷文夫「符谷掖斎の学問と交友」(6月13日)
榎 一雄「岡本保孝と幕末の学界」(6月20日)

秋期 東洋学講座 (第307~310回)

- 田中佩刀「佐藤一斎—人物と学問—」(10月17日)
水田紀久「懷徳孺篋」(10月24日)
林 秀一「閑谷学校に就いて」(10月31日)
麓 保孝「昌平黌官板に就いて」(11月7日)

(なお、春秋二季の各講演の要旨は、『東洋文庫書報』第10号に掲載されている。)

特別講演会

- K. スコット (カナダ)「カナダにおけるモンゴル研究の動向」(4月15日)
- S. C. エゲロット (デンマーク)「東アジア諸言語の系統と類型」(5月23日)
- O. プリツァーク (アメリカ)「新発見の原本ハザル語文書」(9月22日)
- 周 法高 (香港)「中国文字と言語・歴史・美術との関係」(11月22日)

4. 研究会 (東洋文庫談話会)

- 岡田英弘「康熙帝とガルダン」(4月22日)
 - 渡辺紘良「淳熙16年公私債負除放令について」(6月3日)
 - 川勝 守「張居正文量と一条鞭法の普及」(10月7日)
 - 護 雅夫「新疆の旅 (スライド使用)」(10月21日)
 - 関野 雄「北京—ウルムチ紀行 (スライド使用)」(10月28日)
 - 小島幸枝「ドチリナ=キリシタンの諸本について」(11月25日)
 - 部 勇造「古代南アラビア碑文中のペドウィンについて」(2月24日)
- (なお、各発表の要旨は、『東洋文庫書報』第10号に掲載されている。)

5. 研究者養成

- 中国研究：浜下武志「中国近代経済史研究—金融問題を中心として—」
- チベット研究：原田 覚「吐蕃仏教の研究」
- 西アジア研究：部 勇造「古代南アラビア史のクロノロジーの研究」

6. 国内・国外研究者への便宜供与

国内研究者への便宜供与

- 日本学術振興会流動研究員 (九州大学助教授) 川勝 守 (賢亮)「明清時代、地主制構造の総合的研究」(昭和53年度1年間)
- (東海学園女子短期大学助教授) 小島幸枝「初期日本ヤソ会板における翻訳の研究—特にドチリナ=キリシタンを中心として—」(昭和53年度上半期)

外国人研究者への便宜供与

- 文 暲鉉（大韓民国慶北大学校助教授）「李朝における地方自治組織および農村社会経済語彙の研究」（国際交流基金の招聘による）（昭和53年8月以降9ヶ月間）
- 黄 涇江（大韓民国檀国大学校教授）「古代及び中世における韓国・日本の神話、並びに文学の比較研究とその資料調査」（昭和53年9月以降2年間）
- Pierre—Etienne Will（フランス社会科学高等研究院研究員）「明・清社会経済史研究」（日仏科学協力事業研究者交換計画の依頼による）（昭和53年9月～10月の40日間）
- Stuart R. Schram（イギリス・ロンドン大学教授・現代中国研究所長）「毛沢東の政治思想等の研究」（昭和53年11月～同54年7月まで）
- 辛 勝夏（大韓民国檀国大学校助教授）「近代における東北アジア史研究」（昭和53年12月以降4ヶ月間）

7. 職員の研究業績

（期間：昭和53年4月1日～昭和54年3月31日まで）

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介 ⑥…翻訳
⑦…講演・研究発表 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

池田 温

- ①『中国古代籍帳研究 概観・録文』（東京大学出版会，1979年3月，669頁），
②（山本達郎・岡野誠氏共編）『Tunhuang and Turfan Documents concerning Social and Economic History. I Legal Texts (B) Plates』（東洋文庫，1978年，106頁），③「大中入唐日本王子説」（『井上光貞博士還暦記念古代史論叢 下巻』195～219頁，吉川弘文館，1978年9月），「麗宋通交の一面—進奉・下賜品をめぐって—」（『三上次男博士頌寿記念東洋史・考古学論集』23～53頁，同論集編集委員会，1979年3月），④（岡野誠氏共同執筆）「敦煌・吐魯番発見唐代法制文献」（法制史研究27，189～229頁，創文社，1978年5月），⑤「藤枝 晃編『高昌残影』（史学雑誌87—11，1645～46頁，史学会，1978年11月），「山本達郎「敦煌発見の籍帳にみえる『自田』」（法制史研究28，264～65頁，創文社，1979年3月），⑦「中国の律令」（東アジアの古代文化を考える会，1978年10月21日），「敦煌・吐魯番の古代土地制度をめぐって」（京都東洋史研究会大会，1978年11月3日），「近年の日本における敦煌文献研究」（パリERA438研究会，1978年11月23日），「最近日本で発見された古代金石文」（パリ日本館講演会，1978年11月27日），⑧「訪中随感」（『中国の春，日本青壮年中国研究者訪中の記録』12～16頁，1978年11月）。

梅村 坦

②『東西交渉史文献目録Ⅰ——中央アジア（1886—1977）——』（シルクロード社、1979年3月30日、65頁）、⑤「新疆維吾爾自治区文字改革委員会編『維語正字詞匯（維漢対照）』、新疆教育出版社編輯『漢維簡明小詞典』（東洋学報60—1・2、190～195頁、東洋文庫、1978年11月）、⑧「特集（シルクロードと日本）関係文献解説」（歴史公論4—12、167～172頁、雄山閣、1978年12月1日）、⑨「東西交渉史文献目録8—12（トルコ関係文献目録その6—10）」（月刊シルクロード4—1～5、55～51頁、105～98頁、55～52頁、55～48頁、71～67頁、シルクロード社、1978年1月、2月、4月、5月、6月）。

海野一隆

③「天保国絵図の仕上げ費用」（月刊古地図研究9—5、2～4頁、日本地図資料協会、1978年7月）、「橋本宗吉世界図の異版・偽版・模倣版」（『月刊古地図研究百号記念論集』49～59頁、国際地学協会、1978年12月）、「西洋地球説の伝来(1)」（自然 1979年3月号、60～67頁、中央公論社、1979年2月）、「ヨーロッパにおける広輿図——シナ地図学西漸の初期状況——（承前）」（研究集録27、41～86頁、大阪大学教養部、1979年2月）、「地図学的見地よりする馬王堆出土地図の検討」（東方学報51、59～82頁、京都大学人文科学研究所、1979年3月）。

榎 一雄

③「Some Remarks on Chieh-shi 掲師」（An Appendix to G. Tucci, On Swāt. The Dards and Connected Problems, In: East and West, New Series 27, No. 1/2, March-June 1977, pp. 86-91）、「董恂の著書特に日記について(1)」（近代中国4、101～119頁、敵南堂書店、1978年10月）、「Su-chou in Late Ming」（Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko, No. 36, 1978, pp. 145-166）、「岡本保孝のこと 補遺」（東洋文庫書報10、65～74頁、東洋文庫、1979年3月）、④「ミルスキイ著『オーレル＝スタイン卿伝』を中心として」（『海外 東方学界消息 54』、東方学55、119～133頁、東方学会、1978年1月）、⑦「国民性（民族性）と学術の使命～国学の比較研究の試み～」（国学院大学日本文化研究所紀要37、〔二十周年記念特輯号〕、357～379頁、国学院大学、1976年3月）、「民族と文化の発見」（東京大明堂刊、39～62、249～250頁、1978年12月）、「岡本保孝と幕末の学界」（東洋文庫書報10、65～74頁、東洋文庫、1979年3月）、⑧「ヨーロッパとアジア(2)：デカメロンとアジア」（月刊シルクロード、Ⅳ—3、pp. 27～31、1978年4月）、「ヨーロッパとアジア(3)：ポルトガルとオスマントルコ」（同上、Ⅳ—4、pp. 28～32、1978年5月）、「ヨーロッパとアジア(4～7)：漢字の西方伝播(1～4)」（同上、Ⅳ—6、pp. 19～24、Ⅳ—7、pp. 83～89、Ⅳ—8、pp. 28～33、Ⅳ—10、pp. 5～12、1978年7月、8月、10月、12月）、「ヨーロッパとアジア(8～9)：18世紀フランス流寓の支那人(1～2)」（同上、Ⅴ—1、pp. 13～19、Ⅴ—2、pp. 92～98、1979年1月、

2/3月),「先学を語る——和田清博士——」(東方学56, 144~167頁, 東方学会, 1978年7月),「日本をみつめるために」(〔日本女子大学教養特別講義〕第12集, 78~99頁, 1978年6月),「東西交流に尽力した人々」(木雞1, 25~33頁, 1979年3月),「日本におけるトマス=ウエイド」(亜細亜大学アジア研究所所報 13, pp. 8~9, 1979年1月),「東洋文庫所蔵漢籍分類目録(経部)」序文(pp. 1~3, 東洋文庫, 1978年12月),「増補東洋文庫朝鮮本分類目録」序文(pp. 1~3, 東洋文庫, 1979年3月), 梅村坦編「東西交渉史文献目録1, 中央アジア1886—1977」序文(pp. III~IV, シルクロード社, 1979年3月),「東方学編輯後記」(東方学56, 181頁, 東方学会, 1978年7月, 同57, 179頁, 1979年1月),「東西方的文化交流」(「七十年代」第101期, 香港, 1978年6月, pp. 57~58),「肅州和泉州——古代兩個國際文化城市」(「七十年代」第102期, 1978年7月, pp. 56~58),「学齡以前」(幼児開発, 1978年4月号, pp. 6~9),「簡潔正確な技法〔古代エジプト展, 王女クヌムトの首飾, 解説〕」(夕刊読売新聞, 1978年4月6日, p. 2),「昭和51年度の東洋文庫」(財団法人東洋文庫年報〔昭和51年度〕, pp. 3~4, 1958年3月), 山川出版社刊『アジア文化史論叢』推薦文(1978年5月),「昭和九年仏法大会記事」(一高同窓会会報57, pp. 13~14, 1978年7月),「学問の徳」(言論春秋16, 1978年11月20日, p. 2),「長野県北安曇教育会への通信」(北安教育会だより16, p. 2, 1978年11月1日),「東京六大学教授リーグ戦(ちょっといい話, 学界余滴)」(文芸春秋LVII-1, 1979年1月, pp. 306~307),「久方の月の桂も」(言論春秋20, p. 2, 1978年12月18日),「1978年読書アンケート」(みすず225, pp. 14~15, 1979年1月),「書架紀行」(図書新聞, 1979年3月31日, p. 3)。

越智重明

③「漢時代の算賦をめぐって」(『三上次男博士頌寿記念東洋史・考古学論集』139~158頁, 三上次男博士頌寿記念論集編集委員会, 1979年3月),「漢時代の賤民, 賤人, 士伍, 商人」(九州大学東洋史論集7, 1~26頁, 九州大学東洋史研究会, 1979年3月),「晋南朝の秀才・孝廉」(史淵116, 85~114頁, 九州大学文学部, 1979年3月)。

岡田英弘

③「中国意外史講座3 恋愛」(月刊シルクロード4—3, 32~36頁, シルクロード社, 1978年4月),「日本における古代王朝 騎馬民族説考」(月刊高校通信東書日本史・世界史34, 2~5頁, 東京書籍社, 1978年4月),「日中関係の今後 三菱と尖閣列島と」(自由世界15—4, 12~20頁, 自由アジア社, 1978年5月),「中国意外史講座4 恐妻」(月刊シルクロード4—6, 30~34頁, シルクロード社, 1978年7月),「正論・日本語人造語論 いままでの国語学ではわからない」(言論人389, 2頁, 言論人懇話会, 1978年9月),「中国意外史講座5 食人」(月刊シルクロード4—8, 41~45頁, シルクロード社, 1978年10月),「三世紀の東アジアと日本」(産

報デラックス99の謎3—15, 92~93頁, サンボウジャーナル社, 1978年10月), 「倭人とシルクロード」(東アジアの古代文化17, 2~14頁, 大和書房, 1978年10月), 「中国意外史講座6 結婚」(月刊シルクロード4—10, 38~42頁, シルクロード社, 1978年12月), 「中国意外史講座7 性」(月刊シルクロード5—1, 46~50頁, シルクロード社, 1979年1月), 「康熙帝・朱筆の陣中便り」(諸君ノ11—1, 200~211頁, 文芸春秋社, 1979年1月), 「なぜ中国人はロシア人を嫌いか 対立の文化史的考察」(正論62, 86~96頁, サンケイ出版社, 1979年1月), 「ベトナム五百年の執念 歴史にみるカンボジア征服の経緯」(言論人403, 2頁, 言論人懇話会, 1979年1月), 「片思い・日本人の中国好き」(文化会議117, 2~9頁, 日本文化会議, 1979年3月), “Outer Mongolia through the eyes of Emperor K'ang-hsi.” (昭和53年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書, 内陸アジア社会史研究, 72~90頁, 1979年3月), ④「国際清史檔案研討会」(通信34, 29~31頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1978年11月), 「第15回野尻湖クリルタイ」(通信34, 33~34頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1978年11月), ④「国際清史檔案研討会」, 「第15回野尻湖クリルタイ」(東洋学報60—1・2, 208~222頁, 東洋文庫, 1978年11月), ⑤「志水速雄著『男らしさの人間学』」(文化会議113, 26頁, 日本文化会議, 1978年11月), 「樋口隆康編『図説日本文化の歴史第一巻, 先史・原史』」(サンケイ新聞13134, 11頁, 産業経済新聞東京本社, 1978年2月21日), 「梅原猛著『万葉を考える』」(週刊サンケイ28—11, 63~64頁, サンケイ出版社, 1979年3月), ⑦「倭国から日本へ」(日本大学史学会春季講演会, 1978年5月27日), “Outer Mongolia through the eyes of Emperor K'ang-hsi.” (台北・国際清史檔案研討会, 1978年7月5日), 「謎の倭国 日本以前の日本」(朝日カルチャーセンター講座, 1978年7月12日~9月6日, 8回), 「外国人の日本人観」(日本文化会議第九回東西文化比較セミナー “国際誤解の構造”, 1978年12月2日), 「古代東アジアの歴史と文化」(朝日カルチャーセンター講座, 1979年1月11日~3月29日, 12回), ⑧「民族主義」(随筆, ざっくばらん5—7, 5頁, 並木書房, 1978年7月), 「アジアを論じ日本語論に至る」(座談会, 言語生活322, 2~14頁, 筑摩書房, 1978年7月), 「邪馬台国と倭国」(座談会, 東アジアの古代文化16, 2~21頁, 大和書房, 1978年7月), 「スターリンも死後批判されたが, 毛沢東も必至の運命」(談話, 日刊ゲンダイ919, 2頁, 講談社, 1978年11月22日), 「トッブテン・ジグメ・ノルブ教授」(プロフィール, 通信34, 25頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1978年11月), 「アメリカ人と中国人」(評論, サンケイ夕刊13057, 1頁, 産業経済新聞東京本社, 1978年12月5日), 「たかがアジア大会」(評論, サンケイ夕刊13064, 1頁, 産業経済新聞東京本社, 1978年12月12日), 「高句麗の壁画」(評論, サンケイ夕刊13071, 1頁, 産業経済新聞東京本社, 1978年12月19日), 「米中国交樹立で予想される専門家が見た国際的大激変と日本のショック」

(談話, 日刊ゲンダイ941, 1頁, 講談社, 1978年12月19日), 「台湾民主国」(評論, サンケイタ刊13078, 1頁, 産業経済新聞東京本社, 1978年12月26日), 「壁新聞のジョーク」(評論, サンケイタ刊13091, 1頁, 産業経済新聞東京本社, 1979年1月9日), 「ベトナムとカンボジア」(評論, サンケイタ刊13098, 1頁, 産業経済新聞東京本社, 1979年1月16日), 「共通一次の世界史」(評論, サンケイタ刊13105, 1頁, 産業経済新聞東京本社, 1979年1月23日), 「太安萬侶と古事記」(評論, サンケイタ刊13112, 1頁, 産業経済新聞東京本社, 1979年1月30日), 「ネコとイヌとどちらがお好きですか」(アンケート, 文芸春秋デラックス6—2, 131頁, 文芸春秋社, 1979年2月), 「元号とは何か」(評論, サンケイタ刊13119, 1頁, 産業経済新聞東京本社, 1979年2月6日), 「嫌球権」(評論, サンケイタ刊13126, 1頁, 産業経済新聞東京本社, 1979年2月13日), 「パンチェン・ラマ」(評論, サンケイタ刊13133, 1頁, 産業経済新聞東京本社, 1979年2月20日), 「中国の戦略」(評論, サンケイタ刊13140, 1頁, 産業経済新聞東京本社, 1979年2月27日), 「ソ連世界戦略の筋書き通り／中国・ベトナム戦争の読み方」(談話, 週刊文春21—9, 153～154頁, 文芸春秋社, 1979年3月1日)。

神田信夫

③「東洋文庫所蔵満洲文書の二三について」(東洋文庫書報10, 1～19頁, 東洋文庫, 1979年3月), ⑤「宮中檔雍王朝奏摺」(東洋学報60—1・2, 179～183頁, 1978年11月), ⑦「満洲語文獻の再発見」(第23回国際東方学会議, 1978年6月16日, 要旨: Transactions of the International Conference of Orientalists in Japan No. 23, pp. 29～30, 東方学会, 1978年), 「The state of Ch'ing Studies in Japan」(国際清史檔案研討会, 1978年7月2日), 「Ming and Ch'ing Documents Now Lost」(同上, 1978年7月5日), 「北京の故宮」(如水婦人会, 1979年2月26日), ⑧「旧満洲檔の研究」(明治大学人文科学研究所年報19, 107～108頁, 1978年12月)。

菊池英夫

③「『庶士』小考」(史朋9, 25～31頁, 北海道大学文学部東洋史談話会, 1978年10月), 「新出吐魯番唐代軍制關係文書試釈——『開元三年四月西州營諸隊火別請受馬料帳』について——」(北海道大学文学部紀要27—1, 3～40頁, 1979年3月), ④「律令法体系の基本性格に関する分析視角について」(唐代史研究会編・発行『中国律令制とその展開——周辺諸国への影響を含めて——』文部省科学研究費総合研究(A)報告書, 5～11頁, 1979年3月)。

黄 汎江

①『朝鮮王朝小説研究』(韓国研究院, 343頁, 1978年7月), ③「恨——韓国的悲劇精神」(東西文化50, 25～28頁, 東西文化社, 1978年8月), 「春香伝研究」(東洋学8, 1～38頁, 檀国大学校東洋学研究所, 1978年10月), 「〈詞脳歌〉様式の考察」(国文学論集9, 65～103頁, 檀国大学校国文科, 1978年12月), 「三国遺事と仏教説話」

(アジア公論76, 269~291頁, アジア公論社, 1979年1月), 「両班伝研究」(韓国学報13, 183~199頁, 一志社, 1978年12月), 「虎叱研究」(韓国小説文学の探求, 205~237頁, 一潮閣, 1978年9月)。

佐伯 富

①『萩原寺藏弘法大師『急就章』解説』(萩原寺, 1978年6月, 31頁), 『宋史兵志索引』(台北華世出版社, 1978年11月, 420頁), ③「内藤博士と困学紀聞」(書論13, 95~99頁, 書論研究会, 1978年11月), ⑤「宮中樞雍王朝奏摺」(東洋史研究37—3, 121~124頁, 東洋史研究会, 1978年12月), ⑦「山西商人の起原と沿革」(東方学会報35, 3—4頁, 東方学会, 1978年12月)。

佐藤次高

③「12—14世紀のエジプト農村社会と農民」(改訂稿)(アジア文化史論叢, 385~477頁, 山川出版社, 1978年11月), 「ジャーヒズとトルコ人奴隷兵」(月刊シルクロード4—7, 23~26頁, シルクロード社, 1978年8月), 「イスラム史におけるマムルークの意味と役割」(高校世界史(指導資料), 32~37頁, 三省堂, 1979年3月), 「イスラム国家とイクター制」(オリエント21—1, 60~67頁, 日本オリエント学会, 1978年9月), ⑤「嶋田襄平著『イスラムの国家と社会』」(オリエント21—1, 172~177頁, 日本オリエント学会, 1978年9月), ⑦「歴史と文明—イラク・シリア—」(朝日カルチャー・センター, 1978年5月), 「アラブ社会と遊牧民——‘urbān」を中心に——」(「イスラム国家論」シンポジウム, 東洋文庫, 1979年1月), 「イスラム文明の成立と発展」(成人大学講座, 豊島区民センター, 1979年3月)。

酒井憲二

②『甲陽軍艦』(1~4)(勉誠社, 1979年3月, 解題2325~2360頁), ③「伴信友管見」(図書館短期大学紀要15, 187~204頁, 1978年9月), ⑦「伴信友管見」(東洋文庫春期東洋学講座, 1978年6月, 要旨: 東洋文庫書報10), ⑧「平曲と平家物語の文章」(『新国語』教材カセット, 16~19頁, 1978年4月), 「山梨短大時代の石森先生」(『石森延男国語教育選集』附録4, 3~4頁, 光村図書, 1978年9月)。

滋賀秀三

③“Family Property and Law of Inheritance in Traditional China” (in David C. Buxbaum (ed.), *Chinese Family Law and Social Change in Historical and Comparative Perspective*, University of Washington Press, 1978, pp. 109~150). ⑤「大庭脩『雲夢出土竹書秦律の研究』, 堀毅『雲夢出土秦簡の基礎的研究』」(法制史研究28, 258~260頁, 法制史学会, 1979年3月)。

周藤吉之

③「高麗前期の宝文閣——宋の諸閣学士・直学士・待制等との関連において——」(朝鮮学報90, 93~145頁, 朝鮮学会, 1979年1月)。

関野 雄

①『中国の美術』(1)、『グランド世界美術』5, 長谷部楽爾と共著, 講談社, 1978年5月, 155頁, 図版121, 挿図104), ②『中国文明の原像』(『放送ライブラリー』21・22, 宮川寅雄・長広敏雄と共編, 1978年8月, 上237頁, 下259頁), 『世界考古学事典』(有光教一らと共編, 平凡社, 1979年2月, 1848頁), ④「中国考古学界の現状」(読売新聞, 1978年9月21日夕刊), ⑦「北京——ウルムチ紀行(スライド使用)」(東洋文庫談話会, 1978年10月28日, 要旨: 東洋文庫書報10, 108~109頁, 1979年3月), ⑧「困った日本語」(人間発達研究3, 34~36頁, お茶の水女子大学心理・教育研究会, 1978年6月), 「花と考古学」(月刊考古学ジャーナル151, 1頁, ニュー・サイエンス社, 1978年7月), 「秦の始皇帝の墓の謎」(エピステーメー, 1978年8月号, 162~168頁, 朝日出版社), 「中国の歴史系博物館」(『世界の博物館』21, 付録「博物館談話室」1~7頁, 講談社, 1978年9月), 「秦始皇兵马俑博物館のスケール」(日中文化交流263, 11頁, 日本中国文化交流協会, 1978年11月), 「杉村勇造先生をしのぶ」(月刊考古学ジャーナル158, ニュー・サイエンス社, 1979年2月), 「中華人民共和国シルクロード展の見どころ」(日本と中国, 1979年3月15日号, 日本中国友好協会)。

辻 直四郎

④『古代インドの説話——ブラーフマナ文献より——』(春秋社, XIII+197頁, 1978年5月), ⑤「ヴァースデーヴァ・アーシュラマ著, P.オリヴェル出版・翻訳『ヤティダルマ・プラカージャ』(遁世者の生活規定), Vienna 1976, 1978」(東洋学報60—1・2, 199~202頁, 東洋文庫, 1978年11月), 「G. オーベルハンメル編著『超絶の経験, その達成の限界』, 「クラウス・ミュリウス著『サンスクリット文学抜粋集』」(東洋学報60—3・4, 241~243, 243~245頁, 東洋文庫, 1979年3月)。

鶴見尚弘

③『『杜騙新書』とその和刻本』(『生江義男先生還暦記念歴史論集』193~208頁, 生江義男先生還暦記念歴史論集刊行委員会, 1978年11月), 「旧中国における共同体の諸問題——明清江南デルタ地帯を中心として——」(史潮新4号, 63~82頁, 歴史学会, 1979年1月)「竜骨車と農民」(近代中国研究彙報創刊号, 3~22頁, 田中正俊と共同執筆, 1979年3月)。

笠沙雅章

③「契丹大蔵経小考」(『内田吟風博士頌寿記念東洋史論叢』311~329頁, 同朋社, 1978年8月), ⑦「白雲宗考」(東北中国学会, 1978年5月27日), ⑦「写経から刊経へ」(龍谷大学史学会, 1978年10月31日), ⑧「中国研究者の見た中国(下)——北京大学, 北京図書館——」(東方5, 18~19頁, 東方書店, 1978年6月)。

鳥海 靖

①『近代日本の二人の主役 I』(笠原一男氏と共編著『ライバル日本史』4, 評論

社, 1978年9月, 336頁), ②『田中正造全集 第13巻 日記4』(編集担当, 解題執筆同書641~655頁, 岩波書店, 1978年10月, 655頁), 『国史大辞典 第1巻』(坂本太郎氏らと共編, 吉川弘文館, 1979年2月, 930頁), 『伊藤博文関係文書 第7巻』(伊藤隆氏らと共編, 塙書房, 1979年2月, 403頁), ③「ベルツの見た日露戦争」(歴史読本23—9, 106~113頁, 新人物往来社, 1978年7月), 「伊藤博文と大隈重信」(歴史と人物86, 50~59頁, 中央公論社, 1978年10月), 「今月の日本史」(歴史読本23—6, 23—11, 24—2, 新人物往来社, 1978年5月, 1978年9月, 1979年2月), 「天皇不可侵説——神聖不可侵説と不敬罪」「立憲君主制——明治憲法上の天皇の地位」「天皇機関説——天皇の存在をいかにみるか」(児玉幸多編『日本史小百科天皇』38~47頁, 近藤出版社, 1978年11月)。

原田 覚

②『スタイン蒐集チベット語文献解題目録——第3分冊——』(山口瑞鳳他共編, 東洋文庫チベット研究委員会編, 1979年3月, 84頁), ③「“sGra sbyor bam po gñis pa”考」(印度学仏教学研究27—2, 912~909頁, 日本印度学仏教学会, 1979年3月), 「“Mahāvīyutpatti”の成立事情」(日本西蔵学会々報25, 10~13頁, 日本西蔵学会, 1979年3月), ⑤「(回顧と展望)チベット」(史学雑誌87—5, 263~265頁, 史学会, 1978年5月), 「(読書) ハンス・イオン著, 安野早巳訳『太陽の都ラサ』<新チベット紀行>」(月刊シルクロード4—6, 38頁, シルクロード社, 1978年7月), 「(読書) 河口慧海著『チベット旅行記』」(月刊シルクロード4—8, 40頁, シルクロード社, 1978年10月)。

坂野正高

③“Ma Chien-chung's mission to India in 1881: his travel account, *Nan-hsing chi* 南行記”(国際基督教大学社会科学ジャーナル17, 107~122頁, 1979年3月), ②「馬建忠の外交論と海軍論」(学習院大学東洋文化研究所, <東アジア近代における文化摩擦>研究班研究会, 1978年5月17日), 「研究こぼれ話——北京から見た生麦事件」(国際基督教大学教職員研修会, 1978年7月7日), 「馬建忠のインド紀行『南行記』1881年・アヘン貿易漸減案打診の旅」(東京大学法学部政治研究会, 1978年10月28日), 「我研究中国近代外交史の経験——一個日本研究者的自我估価」(香港中文大学中国文化研究所, 學術研討会, 1978年11月2日), “Ma Chien-chung's mission to India in 1881: his travel account, *Nan-hsing chi* 南行記”(香港中文大学中国文化研究所, 學術研討会, 1978年11月9日, および香港大学アジア研究センターにおけるランチ・トーク, 1978年11月7日)。

部 勇造

⑦「古代南アラビア碑文中のペドウィンについて」(東洋文庫談話会, 1979年2月24日), ⑧「イスラーム以前のアラビア半島——南アラビアの神々と一神教の流入」(月刊シルクロード4—9, 14~16頁, シルクロード社, 1978年11月)。

藤枝 晃

③「印仏・印沙仏——パリと奈良との仏教版画展から」(上中下)(日本美術工芸480号, 15~22頁, 図版4頁, 481号, 15~25頁, 482号, 15~23頁, 大阪・日本美術工芸社, 1978年9月~11月), ④「大谷コレクションの現状」(宗教部報・リゆうこく19, 6~9頁, 竜谷大学宗教部, 1978年4月), 「最後の西域探検家」(芸術新潮347, 74~75頁, 新潮社, 1978年11月), ⑦「絹の道異聞」(大阪高等学校同窓会総会, 1978年11月8日, 要旨: 同会会報33, 4頁, 1978年12月), 「トルファン写本の分期」(聖徳太子研究会学術大会, 1978年12月2日), 「敦煌の絹絵」(龍谷大学仏教文化研究所公開講演, 1979年2月5日), ⑧「座談会『西域を語る』井上靖, 樋口隆康, 司馬遼太郎と」(『西域をゆく』119~177頁, 潮出版社, 1978年8月), 「表紙・トピラ(=表紙の解説)」(言語生活319—327, 筑摩書房, 1978年4月—7月, 11月—1979年3月)。

古垣光一

⑦「宋太祖被弑説についての一私見」(中央大学白東史学会月例研究報告会, 1978年6月13日)。

文 暎絃 (Moon Kyung Hion)

②『韓国史概説』(共編, 高麗以前部篇, 慶北大学校, 1979年2月, 1~79頁), ③「鄭夢周殉節処の新考察」(『栗原韓相俊先生華甲紀念史学論叢』, 大丘史15, 16合輯, 179~223頁, 大丘史学会, 1978年12月), 「王建太祖の民族再統一の研究」(慶北史学1, 1~61頁, 慶北大学校史学科, 1979年12月)。

護 雅夫

①『アラブの覚醒』(牟田口義郎氏と共著, 『世界の歴史』22, 講談社, 1978年7月, 1~91頁), ③「シルクロードの言語」(言語7—7, 2~13頁, 大修館書店, 1978年7月), 「騎馬民族説を再検討する」(歴史公論4—9, 77~80頁, 雄山閣出版, 1978年9月), 「遊牧騎馬民族文化と日本神話」(国文学23—14, 54~60頁, 学燈社, 1978年11月), 「遊牧民とシルクロード」(歴史公論4—12, 54~65頁, 雄山閣出版, 1978年12月), 「シルクロードとソグド人」(東洋学術研究18—2, 21~50頁, 東洋哲学研究所, 1979年3月), ⑥「デイヴィッド・ホサム著『トルコ人』(1)(2)」(小池都・清水敏江両氏と共訳, みすず224, 226, 38~46頁, 25~35頁, みすず書房, 1978年12月, 1979年2月), ⑦「東トルキスタンの歴史と文化」(朝日カルチャーセンター, 1978年4月4日), 「東トルキスタンの隊商貿易」(朝日カルチャーセンター, 1978年4月11日), 「遊牧騎馬帝国の成立」(朝日カルチャーセンター, 1978年5月18日), 「東トルキスタンとソグド人」(朝日カルチャーセンター, 1978年5月23日), 「トルコ系遊牧民」(朝日カルチャーセンター, 1978年5月30日), 「イスラム圏の歴史と文化——トルコ——」(朝日カルチャーセンター, 1978年6月8日), 「モンゴル民族とシルクロード」(月曜会, 1978年7月17日), 「教育・学術・文化の国際交流」

(朝日カルチャーセンター、1978年7月19日)、「日本におけるトルコ学研究」(中国社会科学院、1978年8月23日)、「スーヅ碑文考」(韓国学術院、1978年9月5日)、「シルクロードについて」(月曜会、1978年9月18日)、「トルコと日本」(三水会、1978年9月20日)、「新疆の遺跡について」(内陸アジア出土文献研究会、1978年10月21日)、「新疆の遺跡を訪ねて」(史学会公開講演、1978年11月11日)、「中央アジアの国々に・歴史と文化」(カザフ共和国——文化の集い——1978年11月11日)、「遊牧民とシルクロード」(上智大学史学会公開講演、1978年11月18日)、「トルコ民族と世界史」(岩波市民講座、1978年11月21日、28日)、「新疆の旅」(月曜会、1978年11月27日)、「シルクロードとソグド人」(東洋哲学研究所講座、1978年11月30日)、「現代トルコの政治と経済」(貿易研修センター、1979年1月11日)、「中世ヨーロッパとイスラム」(朝日カルチャーセンター、1979年1月19日)、「突厥とその文化」(東京文化センター、1979年2月9日)、「トルコ人と日本人」(貿易研修センター、1979年2月12日)、「三国志の世界」(鎌倉成人大学講座、1979年3月13日)、「南北朝の時代」(鎌倉成人大学講座、1979年3月20日)、⑧「トルコ語ことはじめ」(朝日ジャーナル、59頁、1978年7月28日)、「新疆に旅して」(宮川寅雄、三上次男両氏との座談会、中国北京放送、1978年8月21日)、「トルコの政局・経済・社会情勢」(東書38、6～7頁、東京書籍、1978年9月1日)、「トゥルファンで考えたこと」(日中文化交流262、13頁、日中文化交流協会、1978年10月1日)、「シルクロードの今昔をもとめて」(山田信夫、長沢和俊両氏との座談会、歴史公論4—12、29～44頁、雄山閣出版、1978年12月)、「トルコ民族と東西文化の交流」(『続・私のシルクロード』169～199頁、朝日新聞社、1978年12月)、「学界余滴」(文芸春秋57—1、302頁、1979年1月)、「羊と人間」(週刊読売38—1、130～131頁、1979年1月)、「西トルキスタン史概説」(月刊シルクロード5—2、11、39、70頁、シルクロード社、1979年2月)、「戈壁灘のまっただなかに」(ヘディン探検全集第2巻付録月報第6号、1～3頁、白水社、1979年2月)、「書架紀行」(図書新聞、1979年3月3日)。

山口瑞鳳

③「吐蕃王国仏教史年代考」(成田山仏教研究紀要3、1～52頁、成田山、1978年6月)、「『諸王統史明示鏡』の著書と成立年」(東洋学報60—1・2、1～18頁、東洋文庫、1978年11月)、「七世紀前半の吐蕃とネパールの関係」(東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要2、29～57頁、東京大学文学部、1979年3月)、「吐蕃王国の成立と法令・制度」(『中国律令制とその展開』・<科研費>唐代史研究会報告Ⅱ、79～89頁、唐代史研究会、1979年3月)、⑤「回顧と展望——チベット」(史学雑誌88—5、258～260頁、史学会、1979年3月)。

山崎元一

①『アショーク王伝説の研究』(春秋社、1979年2月、404頁)、⑤「モーティ・チャ

ンドラ著『古代インドの交易と交通路』、ブラスカーシュ・C・ブラスード著『古代インドの外国貿易と通商』(東洋学報60—3・4, 236—241頁, 東洋文庫, 1979年3月), ⑥「古代インドの伝説と史実(1)~(6)」(春秋197—202, 巻頭, 1978年8/9月~1979年2/3月), 「ネオ・ブディズム運動とその背景」(民族文化14—3, 28~36頁, アジア民族協会, 1978年12月), 「アンベードカル小伝」(第三文明215, 132~159頁, 第三文明社, 1979年1月)。

山根幸夫

②『和刻本・大明一統志』(上・下)(長沢規矩也共編, 汲古書院, 1978年11月, 1550頁), 『近代日中関係史文献目録』(東京女子大学東洋史研究室, 1979年3月, 197頁), ⑤「ソウル大学東洋史研究室『ソウル大学東洋史学科論集』第1輯」(東洋学報60—1・2, 166~170頁, 東洋文庫, 1978年11月), 「呉智和編『明史研究専刊』第1期」(東洋学報60—3・4, 222~225頁, 東洋文庫, 1979年3月), ⑥「李成珪著『清初地方統治の確立過程と郷紳(上)——順治年間の山東地方を中心にして——』(稲田英子共訳, 明代史研究6, 25~47頁, 明代史研究会, 1978年12月), ⑧「延安雜記」(日中友好大学教員訪中団文集, 19~21頁, 日中学術懇談会, 1978年4月), 「中国の歴史小説『李自成』」(燎原5, 4~5頁, 燎原書店, 1978年7月), 「日中学術交流についての随想——中国研究者として——」(日中学術懇談9, 2頁, 日中学術懇談会, 1978年11月), 「中国書の専門店」(史論32, 52~58頁, 東京女子大学読史会, 1979年3月), 『『教科書批判』について』(世界史の研究98, 28~29頁, 山川出版社, 1979年2月), 「台湾における明代史研究文献目録(1977年)」(明代史研究6, 20, 24頁, 明代史研究会, 1978年12月), 『『増訂日本現存明人文集目録』正誤表』(明代史研究6, 48頁, 明代史研究会, 1978年12月)。

渡辺兼庸

②『東洋文庫所蔵甲骨文字』(財団法人東洋文庫, 昭和54年3月, ii+i+iii+120+15頁), 『東洋文庫所蔵漢籍分類目録 経部』(財団法人東洋文庫, 昭和54年3月, iii+ii+1+65+15頁)。

IV 業務報告

1. 庶務報告

A. 財団法人東洋文庫理事会・評議員会

理事会

- 第221回 開催日 昭和53年6月6日(火)
出席者 榎 一雄, 河野六郎, 高垣寅次郎, 山本達郎
委任状 辻 直四郎, 有光次郎, 小笠原光雄, 川北禎一, 酒井杏之助
徳川宗敬, 松本重治, 中島正樹
- 第222回 開催日 昭和53年10月23日(月)(臨時持廻り)
- 第223回 開催日 昭和53年11月28日(火)
出席者 榎 一雄, 河野六郎, 高垣寅次郎
委任状 辻 直四郎, 有光次郎, 小笠原光雄, 川北禎一, 酒井杏之助
徳川宗敬, 松本重治, 山本達郎, 中島正樹

評議員会

- 第98回 開催日 昭和53年6月6日(火)
出席者 坂本太郎
委任状 石川忠雄, 梅原末治, 岡本道雄, 中山素平, 長谷川周重
俣野健輔, 向坊 隆, 村井資長

B. 東洋学連絡委員会

- 前期 開催日 昭和53年5月30日(火)
議 題 1. 昭和52年度財団法人東洋文庫事業報告について
2. 昭和53年度財団法人東洋文庫事業計画について
- 後期 開催日 昭和53年11月21日(火)
議 題 1. 昭和53年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2. 昭和54年度財団法人東洋文庫事業計画案について

C. 東洋文庫維持会

本維持会は、財団法人東洋文庫の事業を援助発展させることを目的として結成されたもので、現在の会員は下記の通り47社である。会員には普通会員(個人)、賛助会員(個人又は法人団体)、及び特別会員があり、特別会員を除き年会費(普通会員1口5千円以上、賛助会員1口50千円以上)を納入する。

東洋文庫維持会会員名簿

(昭和54年3月31日現在 敬称略・順不同)

三菱重工業株式会社	三菱化工機株式会社
株式会社三菱銀行	三菱瓦斯化学株式会社
旭硝子株式会社	三菱建設株式会社
三菱化成工業株式会社	三菱自動車工業株式会社
三菱金属株式会社	三菱自動車販売株式会社
三菱鉱業セメント株式会社	三菱樹脂株式会社
三菱地所株式会社	三菱製鋼株式会社
三菱商事株式会社	三菱製紙株式会社
三菱石油株式会社	三菱モンサント化成株式会社
三菱電機株式会社	三菱油化株式会社
三菱レイヨン株式会社	株式会社伊勢丹
日本郵船株式会社	エーザイ株式会社
三菱信託銀行株式会社	小田急電鉄株式会社
三菱倉庫株式会社	株式会社西武百貨店
明治生命保険相互会社	東亜建設工業株式会社
株式会社竹中工務店	東亜燃料工業株式会社
千代田化工建設株式会社	戸田建設株式会社
東京急行電鉄株式会社	日産火災海上保険株式会社
日興証券株式会社	日本信託銀行株式会社
麒麟麦酒株式会社	株式会社日立製作所
東京海上火災保険株式会社	富士紡績株式会社
日本光学工業株式会社	本田技研工業株式会社
三菱アセテート株式会社	精工産業株式会社
三菱アルミニウム株式会社	計 47 社

2. 人事報告

役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
53. 11. 4	評議員	村井資長	退任	早稲田大学総長
53. 11. 5	〃	清水司	就任	〃

委員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
52. 4. 1	東洋学連絡 委員会委員	市古宙三	就任	お茶の水女子大学学長
〃	〃	栗原朋信	〃	早稲田大学教授
〃	〃	中嶋敏夫	〃	大東文化大学教授
〃	〃	日比野丈夫	〃	京都大学教授

職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
51. 2. 15	研究員(兼任)	市古宙三	退任	お茶の水女子大学教授
53. 4. 1	〃	後藤明	就任	山形大学助教授
53. 10. 20	名誉研究員	B・カルルグレン	逝去	元スウェーデン王立極東 古代博物館館長
54. 2. 16	研究員(兼任)	市古宙三	復任	
54. 3. 23	名誉研究員	P・ドゥミエヴィ ル	逝去	フランス学士院会員, 元 コレージュ・ド・フラン ス教授
54. 3. 15	研究員(専任)	金子良太	〃	
54. 3. 31	研究員(奨励)	薮勇造	退任	
〃	〃	浜下武志	〃	

受 賞

年月日	役職名	氏名	区分	備考
51. 5. 3	理事	高 垣 寅次郎	叙 勲	勲一等瑞宝章
51. 11. 3	〃	松 本 重 治	選 任	文化功勞者
〃	評 議 員	俣 野 健 輔	叙 勲	勲一等瑞宝章
〃	東洋学連絡 委員会委員	貝 塚 茂 樹	選 任	文化功勞者
52. 11. 3	専務理事	榎 一 雄	叙 勲	紫綬褒章
53. 11. 3	理 事 長	辻 直四郎	選 任	文化功勞者
〃	東洋学連絡 委員会委員	長 尾 雅 人	叙 勲	勲二等旭日重光章

表 彰

年月日	役職名	氏名	区分	備考
53. 11. 19	司 書	竹之内 信子	勤 統	20年

3. 会計報告

昭和53年度財団法人東洋文庫収支決算書

昭和54年3月31日現在

収入の部		支出の部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
一般会計		一般会計	
国庫補助金	40,509	経常費	64,573
維持会費収入 及寄付金収入	44,265	事業費	53,060
財産収入	6,707		
事業収入	25,971		
雑収入	181		
小計	117,633	小計	117,633
特別会計		特別会計	
ユネスコ東アジア文 化研究センター収入	72,744	ユネスコ東アジア文 化研究センター経費	72,744
国庫補助金	70,266	経常費	46,573
ユネスコ援助金	1,619	事業費	26,171
財産収入	10	文部省科学研究費	11,000
雑収入	849	民間研究助成金研究費	11,200
文部省科学研究費 国庫補助金	11,000		
民間研究助成金	11,200		
小計	94,944	小計	94,944
合計	212,577	合計	212,577

国庫補助金年度別受入額一覧表

年度別	一般会計	特 別 会 計			合 計
		ユネスコ アジア文化 センター	東アジア 研究 会 計	科学研究費 補助金 会 計	
	千円	千円	千円	千円	千円
22	320	—	—	—	320
23	600	—	—	—	600
24	720	—	—	—	720
25	530	—	—	—	530
26	350	—	1,070	1,070	1,420
27	600	—	150	150	750
28	1,000	—	4,500	4,500	5,500
29	1,000	—	1,300	1,300	2,300
30	3,850	—	4,310	4,310	8,160
31	6,850	—	1,940	1,940	8,790
32	6,850	—	2,650	2,650	9,500
33	6,850	—	500	500	7,350
34	6,765	—	5,640	5,640	12,405
35	6,562	—	6,010	6,010	12,572
36	6,000	10,000	3,600	13,600	19,600
37	6,000	11,000	2,010	13,010	19,010
38	6,000	12,000	2,785	14,785	20,785
39	7,828	12,571	3,350	15,921	23,749
40	8,382	12,550	8,895	21,445	29,827
41	9,166 (9,500)	14,257 (14,500)	9,160	23,417	32,583
42	10,901 (11,500)	15,623 (16,000)	7,560	23,182	34,083
43	11,500	16,700	9,900	26,600	38,100
44	13,236 (13,500)	21,466 (21,700)	7,300	28,766	42,002
45	14,827 (15,300)	24,061 (24,500)	6,900	30,961	45,788
46	16,659 (17,200)	27,177 (27,600)	13,900	41,077	57,736
47	18,377 (19,000)	30,430 (31,000)	11,000	41,430	59,807
48	24,173 (25,000)	38,636 (39,500)	3,300	41,936	66,109
49	28,383 (29,000)	49,277 (50,000)	9,420	58,697	87,080
50	30,849 (33,000)	56,079 (58,000)	14,040	70,119	100,968
51	33,750 (34,500)	59,845 (60,565)	0	60,565	95,065
52	35,883 (36,632)	64,864 (65,572)	10,000	75,572	112,204
53	40,509 (41,036)	70,266 (70,756)	11,000	79,657	120,693

() 内は当初予算額

文部省科学研究費補助金年度別受入一覧表

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額 (千円)
26	研究成果刊行費	プラーフマナとシュラウ タストトラとの関係	辻 直四郎	400
	〃	日清戦役外交史の研究	岩井大慧	200
	〃	支那経済史考証	和田 清	390
	各 個 研 究	古代中国の民族構成の研究	〃	80
27	研究成果刊行費	明代建州女直史研究	園田一亀	150
28	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌文 書のマイクロフィルム撮 影並びにその整理研究	岩井大慧	4,500
29	〃	〃	〃	1,300
30	〃	〃	〃	4,000
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 I	神田信夫	310
31	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌文 書のマイクロフィルム撮 影並びにその整理研究	岩井大慧	1,700
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 II	神田信夫	240
32	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌文 書のマイクロフィルム撮 影並びにその整理研究	岩井大慧	1,700
	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献の 調査研究	鈴木 俊	500
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 III	神田信夫	370
33	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献の 調査研究	鈴木 俊	500
34	機 関 研 究	中世以降における東アジ ア諸地域の貴重文献の整 理研究	岩井大慧	4,000
	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献の 調査研究	鈴木 俊	800
	〃	日唐法制経済文書の比較 研究—正倉院文書と敦煌 文書—	仁井田 陞	500
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 IV	神田信夫	340

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額 (千円)
35	機 関 研 究	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井大慧	4,800
	綜 合 研 究	西域出土古文書・古文獻の調査研究	鈴木俊	900
	研究成果刊行費	満文老檔 V	神田信夫	310
				} 6,010
36	機 関 研 究 B	イスラーム諸国の社会構造の研究	榎一雄	1,500
	〃 C	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井大慧	600
	綜 合 研 究	西域出土古文書・古文獻の調査研究	鈴木俊	1,200
	研究成果刊行費	満文老檔 VI	神田信夫	300
				} 3,600
37	機 関 研 究 B	イスラーム諸国の社会構造	榎一雄	1,700
	研究成果刊行費	満文老檔 VII	神田信夫	310
				} 2,010
38	特 定 研 究	イスラーム諸国の社会構造	榎一雄	1,700
	研究成果刊行費	日本文・中国文・朝鮮文等逐次刊行物目録	岩井大慧	1,045
	各 個 研 究	李朝仁祖朝に於ける贖還問題と対清貿易	森岡康	40
				} 2,785
39	特 定 研 究 (2)	イスラーム諸国の社会構造	榎一雄	1,700
	綜 合 研 究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山定雄	750
	研究成果刊行費	中国地方志連合目録	岩井大慧	850
	各 個 研 究	北日本における晩期縄文文化の研究	渡辺兼庸	50
				} 3,350
40	機 関 研 究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川孝三	5,400
	特 定 研 究 (2)	イスラーム諸国の社会構造	榎一雄	1,440
	綜 合 研 究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山定雄	675
	研究成果刊行費	梅原考古資料目録 (朝鮮之部)	榎一雄	550
	〃	漢籍叢書所在目録	森鹿三	830
				} 8,895

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額 (千円)
41	機関研究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川孝三	4,140
	特定研究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎 一雄	2,700
	総合研究	金石文を主とした朝鮮史の基礎的研究	末松保和	1,200
	〃	ペーリ語辞典編集のための基礎的研究	辻 直四郎	300
	研究成果刊行費	漢籍分類目録集部 (東洋文庫の部)	〃	820
42	機関研究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川孝三	3,360
	特定研究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎 一雄	2,700
	総合研究	金石文を主とした朝鮮史の基礎的研究	末松保和	1,200
	〃	ペーリ語辞典編纂のための基礎的研究	辻 直四郎	300
43	一般研究 A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的 研究	青山定雄	7,080
	特定研究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎 一雄	2,820
44	一般研究 A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的 研究	青山定雄	2,000
	特定研究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎 一雄	2,820
	総合研究 A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻 直四郎	2,000
	研究成果刊行費	唐代の服飾	原田淑人	490
45	一般研究 A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的 研究	青山定雄	800
	総合研究 A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻 直四郎	1,600
	海外学術調査	インド・シッキム・ブータン・ネパールにおけるチベット文献の調査と収集	榎 一雄	4,500

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額 (千円)
46	一般研究 A	日本を中心とする近代東アジア国際関係の史的 研究	市古宙三	11,500
	総合研究 A	中国周辺諸言語に関する 中国資料の調査研究	辻直四郎	1,400
	〃	李朝後半期の農村社会文化	田川孝三	1,000
				} 13,900
47	一般研究 A	日本を中心とする近代東 アジア国際関係	市古宙三	5,000
	総合研究 A	李朝後半期の農村社会文化	田川孝三	1,600
	海外学術調査	インド・シッキム・ブー タン・ネパールにおける チベット文献の調査と収 集	榎一雄	4,000
				} 11,000
48	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる 国際情勢	市古宙三	2,500
	海外学術調査	東洋文庫インド・シッキ ム・ネパール調査隊収集 チベット文献の整理と目 録作成	北村甫	800
				} 3,300
49	一般研究 A	南アジアにおける文化変 容の研究および資料の収 集	榎一雄	6,690
	〃 D	明代の地方行政区割、府 ・州・県の地理的沿革に 関する研究	鶴見尚弘	230
	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる 国際情勢	市古宙三	2,500
				} 9,420
50	一般研究 A	イスラム社会の構造に関 する歴史学的研究	辻直四郎	11,500
	〃 D	敦煌出土寺院関係古文書 の基礎的研究	土肥義和	290
	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる 国際情勢	榎一雄	2,550
				} 14,040
52	一般研究 A	中国を中心とする東アジ ア国際関係史資料の書誌 的研究	榎一雄	10,000
53	一般研究 A	中国を中心とする東アジ ア国際関係史資料の書誌 的研究	榎一雄	3,000
	総合研究 A	仏典翻訳の対照意味論的 研究	辻直四郎	3,600
	〃	李朝に於ける地方自治組 織並びに農村社会経済語 彙の研究	田川孝三	4,400
				} 11,000

V 役職員名簿

昭和54年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役員

役職名	氏名	現職
理事長	辻 直四郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
専務理事	榎 一 雄	国立国会図書館支部東洋文庫長 財団法人東洋文庫研究部長 財団法人東洋文庫図書部長 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター所長 東京大学名誉教授
理事	有 光 次 郎	東京家政大学学長
〃	小笠原 光 雄	株式会社三菱銀行相談役
〃	川 北 禎 一	株式会社日本興業銀行相談役
〃	河 野 六 郎	大東文化大学教授
〃	酒 井 杏之助	株式会社第一勧業銀行相談役
〃	高 垣 寅次郎	日本学士院会員 一橋大学名誉教授 成城学園名誉園長
〃	徳 川 宗 敬	神社本庁統理 社団法人日本博物館協会会長
〃	松 本 重 治	財団法人国際文化会館理事長
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 国際基督教大学教授 東京大学名誉教授
監事	中 島 正 樹	株式会社三菱総合研究所社長 社団法人経済団体連合会評議員 経済同友会幹事
評議員	石 川 忠 雄	慶応義塾塾長 慶応義塾大学学長
〃	梅 原 末 治	京都大学名誉教授
〃	岡 本 道 雄	京都大学学長
〃	坂 本 太 郎	日本学士院会員 国学院大学教授 東京大学名誉教授
〃	清 水 司	早稲田大学総長
〃	中 山 素 平	株式会社日本興業銀行相談役
〃	長谷川 周 重	住友化学工業株式会社会長
〃	俣 野 健 輔	飯野海運株式会社会長
〃	向 坊 隆	東京大学総長

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	辻 直四郎	(前掲出)
常任委員	榎 一 雄	(前掲出)
〃	山 本 達 郎	(前掲出)
委 員	市 古 宙 三	(前掲出)
〃	岩 生 成 一	日本学士院会員
〃	江 上 波 夫	古代オリエント博物館館長 東京大学名誉教授
〃	貝 塚 茂 樹	京都大学名誉教授
〃	栗 原 朋 信	(前掲出)
〃	塚 本 善 隆	仏教大学教授 華頂短期大学学長
〃	長 尾 雅 人	鉄鋼短期大学教授 京都大学名誉教授
〃	中 嶋 敏	(前掲出)
〃	日比野 丈 夫	(前掲出)
〃	福 井 康 順	早稲田大学名誉教授
〃	松 本 信 廣	慶応義塾大学講師 慶応義塾大学名誉教授
〃	宮 崎 市 定	京都大学名誉教授
〃	森 鹿 三	仏教大学教授 京都大学名誉教授
〃	吉 川 幸次郎	日本芸術院会員 京都大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏名	現職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
W. フ ッ ク ス	前ケルン大学教授
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授, 元駐日アメリカ大使
W. サ イ モ ン	イギリス学士院会員, ロンドン大学名誉教授
G. ト ウ ッ チ	ローマ大学教授, イタリア中東亜研究所所長
A. フオン・ガベイン	前ハンブルグ大学教授
A. B. デイヴィス	シドニー大学教授
J. ゼ ル ネ	第7パリ大学教授, フランス国立高等研究院研究指導員
H. フ ラ ン ケ	ミュンヘン大学教授
L. ペ テ ッ ク	ローマ大学教授

4. 職 員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	榎 一 雄	(前掲出)
	部 長 代 理	護 雅 夫	東京大学教授
	部 長 補 佐	田 中 正 俊	東京大学教授
	研 究 顧 問	岩 村 忍	京都大学名誉教授
	〃	村 田 治 郎	京都大学名誉教授
	研究員(兼任)	青 山 定 雄	聖心女子大学講師
	〃	荒 松 雄	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	池 田 温	東京大学教授
	〃	市 古 宙 三	(前掲出)
	〃	岩 生 成 一	(前掲出)
	〃	宇都木 章	青山学院大学教授
	〃	梅 原 末 治	(前掲出)
	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	越 智 重 明	九州大学教授
	〃	亀 井 孝 孝	成城大学教授
	〃	川 崎 信 定	筑波大学助教授
	〃	神 田 信 夫	明治大学教授
	〃	菊 池 英 夫	北海道大学教授
	〃	北 村 甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	草 野 靖	熊本大学助教授
	〃	河 野 六 郎	(前掲出)
	〃	後 藤 明	山形大学助教授
	〃	後 藤 均 平	立教大学教授
	〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授
	〃	酒 井 憲 二	図書館短期大学助教授
	〃	滋 賀 秀 三	東京大学教授
	〃	清 水 宏 祐	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手
	〃	末 松 保 和	学習院大学名誉教授
	〃	周 藤 吉 之	東洋大学講師
	〃	関 野 雄	お茶の水女子大学教授
〃	田 川 孝 三	日本大学講師	
〃	田 中 時 彦	東海大学教授	
〃	田 中 正 俊	(前掲出)	
〃	笠 沙 雅 章	京都大学助教授	

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学教授
	〃	土 肥 義 和	国学院大学助教授
	〃	鳥 海 靖	東京大学助教授
	〃	中 嶋 敏	大東文化大学教授
	〃	永 田 雄 三	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授
	〃	坂 野 正 高	国際基督教大学教授
	〃	藤 枝 晃	京都大学名誉教授
	〃	松 濤 誠 達	大正大学講師
	〃	松 村 潤	日本大学教授
	〃	松 本 信 廣	慶応義塾大学名誉教授
	〃	三根谷 徹	東京大学教授
	〃	護 雅 夫	(前掲出)
	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学助教授
	〃	山 崎 元 一	国学院大学教授
	〃	山 根 幸 夫	東京女子大学教授
	〃	山 本 達 郎	(前掲出)
〃	渡 辺 紘 良	独協医科大学助教授	
	研究員(専任)	本 庄 比佐子	
	〃	松 本 明	
図書部	部 長	榎 一雄	
	主 査	中島正之, 森岡 康, 渡辺兼庸	
	副 主 査	大塚祐子, 小山 勲, 竹之内信子, 児野寿満子, 秩父良子	
	〃	広瀬洋子	
	係 員	浅野千秋, 池田直人, 小林輝男, 西園一男	
総務部	部 長	早船艶雄	
	課 長	平野 豊	
	係 員	稲村 優, 宇田川善吉, 染谷コウ, 高木美智子	
	〃	光田憲雄, 谷治嘉紀	

5. 臨時職員

部 名	氏 名
研究部	飯田隆子, 市古健次, 大井 剛, 大嶋立子, 小沢 彰, 久保恵子 小松久男, 佐々木淑子, 鶴園 裕, 堂前敏昭, 花田宇秋, 船津和幸 古垣光一, 藪 陸奥子, 山田恵美子, 山名弘史, 吉田光男
図書部	仙波志津枝, 武藤 淳, 森川孝典, 渡辺 修

(昭和53年4月1日～昭和54年3月31日間に在籍したもの)

VI 財団法人東洋文庫附置

ユネスコ東アジア文化研究センター事業

1. 調査研究事業

1-A. 長期調査研究「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」

【年度】 10ヶ年計画第4年度

【概要】 本計画は、本来センターがユネスコ本部に提案し、1974（昭和49）年の第18回ユネスコ総会で採択された研究計画である。この計画実施のために1976（昭和51）年3月に、センターが受入機関となって東京で開催された「アジア地域文化研究機関代表者会議」の決議に基づいて、各国で調査研究が進められているが、センターでは、本年度、次の三つの研究テーマによる調査研究を実施した。

1-A-1. 「アジア諸国の教育の目標」（4年計画最終年度）

【概要】 48～49年度に実施した「現代アジア文明の地域的特色の比較研究」で取扱った「アジア諸国の初等教育に於ける自国文化の位置づけ」に関する調査研究に引き続いて50年度から実施してきた調査研究である。アジア諸国の伝統と近代教育の関係を総合的にとらえる問題意識およびそれを深化させるための方法論の開発・研究を目的とし、近代・現代のアジア諸国のもつ教育の現実的諸問題とそれを解決しようとする目標を包括的に考察しようとする調査研究事業である。

【専門委員】 榎 一雄(委員長)、阿部 洋、馬越 徹、津田元一郎、豊田俊雄、弘中和彦。

【事業内容】 本年度は最終年度として、従来の研究成果を文章化するため、53年5月13日、11月25日及び54年3月24日に執筆者打合せ会議を開催して原稿をとりまとめた。執筆者は、阿部 洋、馬越 徹、榎 一雄、大野 徹、後藤 明、小林文男、佐藤秀夫、津田元一郎、友杉 孝、豊田俊雄、弘中和彦、護 雅夫の各氏で、報告書の仮題は『アジアの教育における伝統と変革』である。

1-A-2. 「アジアの伝統文化における理想像——年中行事と生涯行事の分析——」（5年計画第3年度）

【概要】 アジア諸民族のもつユートピア思想を、各種の行事や儀式的の調査・分析を通じて探究することを目的としている。

【専門委員】 中根千枝(委員長)、梶原景昭、関本照夫、田村克己、柳川啓一。

【事業内容】

研究会

- 4月21日 柳川啓一：「宗教学における儀礼論」
- 5月30日 中根千枝：「ブータン調査報告」
- 梶原景昭：「タイ・スリランカ訪問報告」

その他の打合せ会合

- 9月12日 下記国際会議最終打合せ会議
- 3月29日 次年度予定打合せ会議

海外実地調査(1)

- 調査地：インドネシア，ジャワ島
- 調査者：関本照夫
- 調査期間：昭和53年6月1日～7月10日

海外実地調査(2)

- 調査地：インド
- 調査者：中根千枝
- 調査期間：昭和53年8月11日～9月10日

国際会議の開催「アジア諸国における年中行事と生涯行事に関する国際打合会議」

(International Working Meeting on the Research Project: Ritual in Relation to Social Life and the Life Cycle of Individuals in Asian Countries)

- 〔主催〕 ユネスコ東アジア文化研究センター
- 〔期日〕 昭和53年9月14日(木)～16日(土)
- 〔会場〕 ホテル高輪 (東京都港区高輪2-1-17)
- 〔参加者宿舎〕 ホテル高輪
- 〔参加者〕 (アルファベット順)

アストシュ=バタチャリア，前カルカッタ大学教授(インド) Dr. Asutosh Bhattacharyya, Professor, Calcutta University (retired) and Visiting Professor, Bihar University, Muzaffarpur, India.

ジェイムズ=ダナンジャヤ，インドネシア大学文学部人類学科講師(インドネシア) Dr. James Danandjaja, Lecturer, Faculty of Letters, University of Indonesia, Jakarta, Indonesia.

ジェイ=ビー=ディ=サナイケ，コロンボ大学助教授(スリランカ) Professor J. B. Disanayaka, Senior Lecturer, Department of Cultural Studies, University of Sri Lanka, Colombo, Sri Lanka.

トゥラスィ=ディワサ=ジョシ，ネパール王国学士院会員(ネパール) Mr. Tulasi Diwasa Joshi, Member, Royal Nepal Academy, Kathmandu, Nepal.

梶原景昭，大阪大学助手(日本) Mr. Kageaki Kajiwara, Research Associate,

Department of Anthropology, Faculty of Human Sciences, Osaka University,
Osaka, Japan.

李 杜鉉, ソウル大学教育学部教授(韓国) Dr. Lee Du-hyun, Professor, Seoul
National University, Seoul, Korea.

中根千枝, 東京大学教授(日本) Professor Chie Nakane, Professor, Institute
of Oriental Culture, University of Tokyo, Tokyo, Japan.

田村克己, 鹿児島大学講師(日本) Mr. Katsumi Tamura, Lecturer, College of
Liberal Arts, Kagoshima University, Kagoshima, Japan.

スリサクラ=ワンリポードム, シルパコン大学人類学助教授(タイ) Professor
Srisakra Vallibhotama, Assistant Professor, Silpakorn University, Bangkok,
Thailand.

柳川啓一, 東京大学教授(日本) Professor Keiichi Yanagawa, Professor,
Department of Religious Studies, Faculty of Letters, University of Tokyo,
Tokyo, Japan.

〔議題〕

1. アジア諸社会における儀礼の解釈
2. 地域的研究計画の立案
3. 実地調査に際しての基本方針

〔日程〕

- 9月14日(木) 午前:参加者登録, センター所長招待歓迎昼食会(開会式——開会
の辞:榎一雄所長), 午後:報告・討論, 夜:センター所長招待レセプション
- 9月15日(金) 午前:報告・討論, 午後:報告・討論
- 9月16日(土) 午前:討論, 午後:東洋文庫見学, 夕刻~夜:討論, 報告書採択,
閉会式

1-A-3. 「アジア諸文化の特色」(5年計画第2年度)

【概要】日本を含むアジア各地の伝統的芸術・芸能等の文化遺産の現状及び由来を調
査し, それらの現代における意味を探ると同時に, それらの比較研究を行なうために
必要な概念を分析・整理することを目的としている。

【専門委員】小泉文夫(委員長), 河竹登志夫, 田口安男, 前野 巖, 松村禎三。

【事業内容】

準備討論

4月22日, 7月22日

研究会

- 9月21日 テーマ設定の為の自由討論
- 10月19日 横道万里雄「能『三輪』の鑑賞, 能——伝統と現代に生きる文化」

12月9日 岩崎友吉「文化財の修復・保存の理念と現実」

3月13日 前野 巽「建造物の保存」

1-B. 一般調査研究

1-B-1. 「世界における東洋学の現状調査」(7年計画最終年度)

【概要】すでに50年度で「日本における日本研究ならびにアジア研究の現状調査」は終了し、その成果は『日本における東洋学の回顧と展望——1963-1972』*Oriental Studies in Japan: Retrospect and Prospect, 1963-1972*として分冊で出版を継続してきているが、51年度より「東アジア諸国における自国研究ならびにアジア研究の現状調査」を推進してきた。これらの成果を英文で出版することによってアジア研究の現状を広く喧伝し、将来の学術発展を期し、同時に国際交流による情報交換を行なうことが本調査研究事業の目的である。

【専門委員】護 雅夫(委員長)、池端雪浦、石井米雄、大野 徹、鳥海 靖、長井信一、松村 潤。

【事業内容】

〔報告書のとりまとめ〕

51年度に招聘して研究会を開催したフィリピンにおける研究の現状に関する報告書については、下記3-Aのように出版した。51年度、52年度のタイ、マレーシアの研究現状の報告書も同様にセンター機関誌に発表される予定である。

〔海外専門家の招聘と研究会〕

アドリアン=ベルナルド=ラピアン、インドネシア国立経済社会研究所研究員、インドネシア大学東南アジア史講師 Mr. Adrian Bernard Lapian, Senior Research Associate, National Institute of Economic and Social Research, LIPI, and Lecturer of Southeast Asian History, Universitas Indonesia, Jakarta 招聘期間：54年2月11日～25日 研究会：2月14日「1970年代のインドネシアにおけるアジア研究」

ジョン=S=T=カー、シンガポール大学政治学部専任講師 Dr. Jon S. T. Quah, Lecturer, Department of Political Science, University of Singapore 招聘期間：54年3月7日～21日 研究会：3月12日「シンガポールの社会科学における最近の動向」

1-B-2. 「東アジア文化研究」

【概要】東アジア文化の形成に欠くことのできない要素としての「青銅器文化」、「稲作文化」の二つの文化に注目し、資料収集・整理と共に調査研究を進めることを目的としている。前者は4年計画の第2年度、後者は5年計画の初年度となっている。

【事業内容】「青銅器文化」については、梅原末治氏収集の、日本および中国の青銅

器資料の整理を昨年にひきつづいて行なった。「稲作文化」については専門家会議を3月30日に開催して、実地調査を含む事業計画を練ると同時に、基礎資料となるアジア地域の地形図購入を開始し、本年度はフィリピンの5万分の1縮尺地図791枚、同じく25万分の1縮尺地図51枚を購入した。

2. 学術交流及びドキュメンテーション活動

2-A. 学術交流

2-A-1. 外国人研究者の招聘

アキン＝ラビバダナ、タマサット大学タイ＝カディ研究所所長 Akin Rabibhadana, Lecturer, Researcher, Research Administrator, Director, Thai Khadi Research Institute, Thammasat University, Bangkok 招聘期間：53年12月1日～15日。その他、上記1-A-2, 1-B-1参照。

2-A-2. 外国人研究者による研究会開催

オメルヤン＝プリツェーク、ハーヴァード大学ウクライナ研究所所長 Dr. Omeljan Pritsak, Director, Ukrainian Research Institute, Harvard University, Cambridge, Mass. 「新発見の原本ハザール語文書 The Newly Discovered Original Khazar Documents」(53年9月22日)

2-A-3. 研究者および職員の海外派遣・出張

関本照夫：上記1-A-2参照。

中根千枝：上記1-A-2参照。

外池明江：53年11月5日より25日まで、第20回ユネスコ総会出席の上、1979～80年度予算接衝及び情報収集のためパリへ派遣した。

小松久男：53年11月13日より27日まで、トルコ語資料・文献の調査、収集のためアンカラへ派遣した（下記2-C参照）。

榎 一雄：53年12月3日より16日まで、ベルリンに於けるドイツ民主共和国ユネスコ国内委員会主催の「文化発展に関する文化研究機関国際協力会議」出席のため及び大英図書館、インディア・オフィス図書館、デンマーク国立図書館の文献調査・情報収集のため、ベルリン、ロンドン、コペンハーゲンに派遣した（下記2-C参照）。

生田 滋：53年12月9日より17日まで、ユネスコ・タイ国ユネスコ国内委員会・シ

ルパコン大学共催の「アジア諸国における伝統的文化の比較研究に関する地域語
問会議」に出席のためバンコクへ派遣した。

佐藤次高：54年3月12日より4月10日まで、アラビア語資料・文献の調査、収集の
ためカイロへ派遣した（下記2-C参照）。

2-A-4. その他

今年度、上記10名の外国人研究者（1-A-2, 1-B-1, 2-A-1, 2-A-2）以外でセン
ターを訪れ、センターが便宜供与した外国人研究者は以下のとおりである。

Mr. B. Sitaraman: Visiting Scholar, The University of Tokyo

Dr. Chetana Nagavajara: Dean, Faculty of Arts, Silpakorn University, Bangkok

Ms. Soemartini: Director, National Archives of Indonesia, Jakarta

Prof. Iraj Afshar: Professor, Director, Library of Tehran University, Tehran

Prof. L. H. van der Tweel: Professor, Laboratory of Medical Physics, Uni-
versity of Amsterdam, Amsterdam

Mr. Surenjavin Ganbold: Third Secretary, Embassy of the Mongolian People's
Republic, Tokyo

Mr. Herbert Kaminski: Researcher, Institute of Asian Affairs, Hamburg

Dr. A. G. Haudricourt: Directeur de Recherche, Centre National de la
Recherche Scientifique, Paris

Ms. Marianne Kocks: Bibliothekarin, Ostasienabteilung, Staatsbibliothek
Preussischer Kulturbesitz, Berlin

Ms. Siew Mun Khoo: Deputy Head Librarian, Library, University of Malaya,
Kuala Lumpur

Mr. George Sviridov: Researcher, Institute of Oriental Studies, Leningrad
Branch, Academy of Sciences of the U.S.S.R., Leningrad

Mr. Charles Benoit: Teaching Fellow, Harvard University, Cambridge, Mass.

Mr. Soetopo Soetano: Head, Modern History Section, University of Indonesia,
Jakarta

Mrs. Stella R. Quah: Instructor, Department of Sociology, University of
Singapore, Singapore

Mr. Ricardo G. Abad: Director, Institute of Philippine Culture, Ateneo de
Manila University

Mr. Muhammad Haji Salleh: Office of the Dean, Faculty of Social Sciences
and Humanities, National University of Malaysia, Bansi

Mr. Francisco Sionil Jose: Novelist, Writer, Editor of Solidaridad, Manila

Ms. Nik Safiah Karim: Associate Professor, Department of Malay Studies,

2-B. 文献目録等の作成

2-B-1. 「日本における近代中国研究の現状」調査

【連絡委員】 市古宙三(代表), 安藤彦太郎, 今堀誠二, 衛藤藩吉, 川勝 守, 河地重蔵, 菊池英夫, 鈴木中正, 田中正俊, 藤本 昭, 堀川哲男, 山田辰雄。

【事業内容】 昨年度と同様に, 国内の近代中国研究者の姓名, 住所, 現職, 専門領域, 業績の調査をおこない, カード化した。本カードは東洋文庫近代中国研究室参考図書室で研究者への便に供されている。また本年度は従来までのアンケート調査の取まとめを行ない, 11月10日, 2月24日に会合を開き, 文献目録の編集及び出版計画を具体的に検討した。

2-B-2. 「日本における中央アジア研究文献目録」編集(5年計画初年度)

明治以来, 現代に至る日本人による中央アジア研究の発展には質・量ともに世界をリードする側面があり, これらの成果を一望のもとにまとめて内外研究者の便に供することは必須の課題である。本年度は初年度として基礎カード作成に着手すると同時に, 12月16日に専門家会議を開催して, 収録範囲, 編集方針等について検討した。

2-B-3. 「日本におけるアジア(含日本)研究者一覧」の編集

本書刊行は, 下記2-B-4のシリーズ完成に伴なうものであり, ひきつづき編集を進めた。

2-B-4. 「日本における東洋学の回顧と展望」(英文)の編集。

新たに2点の編集を完了し, 刊行した。下記3-Dを参照。

2-C. 資料の調査・収集及び整理

本事業は, アジア諸国においてアジア諸言語によって書かれたアジア文化に関する学術書・学術雑誌等の刊行物の出版状況を調査し, 情報を収集するほか必要な書籍・雑誌・文献等を収集, 整理することを目的としている。

本年度は, 東京大学大学院の小松久男氏をアンカラへ派遣してトルコ語による政府刊行物, 学術雑誌等の文献約420冊を購入し, またお茶の水女子大学助教授の佐藤次高氏をカイロへ派遣してアラビア語書籍等約320冊を購入した。そのほか, 資料調査のため, 榎 一雄所長をイギリス及びデンマークに派遣した(上記2-A-3参照)。

なお, 昨年度購入したペルシア語本及びマイクロフィルムの整理を進め, また, 東洋文庫所蔵の関係マイクロフィルムのうちすでに焼付をしたものの整理をおこなった。

2-D. 語学講習会の開催

ベルシア語講習会

期間：昭和53年7月17日(月)―8月25日(金) 毎週月曜日から金曜日 午前9時より正午まで

会場：東京外国語大学

講師：黒柳恒男, 山田 稔, ファルディーン西田, 青木愛子, 藤井守男

2-E. 図書の寄贈及び交換

本年度も従来どおり、センターの出版物を国内の大学、研究所、在日各国大使館など約200個所、国外の大学、研究所、国際的機関など約200個所に定期的に寄贈した。また国内の研究機関約50個所、国外の研究機関約100個所から定期的に出版物の寄贈をうけた。

3. 出版物の作成

3-A. 機関誌 East Asian Cultural Studies の刊行

本年度は、Vol. XVIII, Nos. 1-4合併号(183ページ)を刊行した。内容は、フィリピン大学のレスリイ=バウソン Leslie E. Bauzon 教授による論文で、51年度の上記 1-B-1 事業の「東アジア諸国における自国研究ならびにアジア研究の現状調査」にもとづくものである。タイトル及び目次は以下のとおりである。

Asian Studies in the Philippines

Preface by Masao Mori

- I Introduction
- II The Social Sciences in the Philippines
- III Trends and Bibliographies
- IV Institutional Framework
- V Anthropology
- VI Economics
- VII Education
- VIII Geography
- IX History
- X Humanities
- XI Linguistics
- XII Philosophy and Religion

XIII Political Science

XIV Psychology

XV Sociology

Conclusion

Notes

Bibliographical Index

3-B. 史料・研究書の翻訳，出版

チャン・ヴァン・ザップ著，グエン・カク・カム翻訳『ベトナム書誌』（英文）の編集を進めた。

3-C. 東アジア文化研究シリーズ

小林弘子著『今昔物語集本朝世俗篇の研究』（英文 The Human Comedy of Heian Japan: A Study of the Secular Stories in the Twelfth Century Collection of Tales, *Konjaku Monogatari-shū*），359ページを出版した。

目次は下記のとおり。

Preface

Acknowledgements

Note

I. Introduction

II. Social Classes

1. Members of the Imperial Family

2. Aristocrats

3. Provincial Governors

4. Buddhist Priests

5. Warriors

Warriors at War-National Rebellions and Local Battles Warriors off the Battlefield

An Evaluation of Warrior Tales

6. Common People

Robbers

Common People

7. The Giant on the Beach

III. Poem Tales in Book 30

1. *Utamonogatari* in *Konjaku* and Elsewhere

2. Heijū in *Konjaku* and Elsewhere

3. "Ashikari" in *Konjaku* and Elsewhere
- IV. Comments Accompanying the Tales
 1. General Philosophy
 2. Buddhistic Comments
 3. Inconsistent or Irrelevant Comments

V. Conclusion

Appendixes

1. Translation of Tales from *Konjaku* and *Yamato monogatari*
2. A List of the *Konjaku* Tales Translated into Western Languages

Notes

Select Bibliography

Index of *Konjaku* Tales

Index

3-D. 文献目録の出版

『日本における東洋学の回顧と展望』(英文 Oriental Studies in Japan: Retrospect and Prospect, 1963-1972) (上記2-B-4参照) を二点刊行した。

Part I-6 長谷川成一, 金井 円「日本中世史(B)」History of Mediaeval Japan (B)

Part II-20 友杉 孝「現代東南アジア」Contemporary Southeast Asia (B)

4. 業 務 報 告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

前期 開催日 昭和53年5月30日（火）

報告 1. 昭和52年度事業報告及び決算報告について

議題 1. 昭和53年度事業計画案及び予算案について

2. 運営委員の改選について

3. 所長の改選について

4. 運営委員の委嘱について

5. 民間学術奨励協会の設立について

後期 開催日 昭和53年11月21日（火）

報告 1. 昭和53年度事業及び会計中間報告について

議題 1. 昭和54年度概算要求について

顧問会議

開催日 昭和53年5月30日（火）

報告 1. 昭和52年度事業報告及び決算報告について

2. 運営委員の改選について

3. 運営委員の委嘱について

議題 1. 昭和53年度事業計画案及び予算案について

2. 所長の改選について

3. 民間学術奨励協会の設立について

B. 役員異動

異動月日	役職名	氏名	就退区分	備考
53. 4. 27	運営委員	大野盛雄	退任	前東京大学東洋文化研究所所長
〃	〃	岡田与好	〃	前東京大学社会科学研究所所長
〃	〃	林屋辰三郎	〃	前京都大学人文科学研究所所長
53. 4. 28	〃	深井晋司	就任	東京大学東洋文化研究所所長
〃	〃	石田雄	〃	東京大学社会科学研究所所長
〃	〃	河野健二	〃	京都大学人文科学研究所所長
53. 6. 1	〃	河野六郎	〃	大東文化大学教授，財団法人東洋文庫理事
53. 6. 20	顧問	井内慶次郎	退任	前文部省学術国際局長，日本ユネスコ国内委員会事務総長
53. 6. 21	〃	篠沢公平	就任	文部省学術国際局長，日本ユネスコ国内委員会事務総長
54. 2. 18	運営委員	手塚晃	退任	前文部省学術国際局審議官
54. 2. 19	〃	大崎仁	就任	文部省学術国際局審議官

C. 職員異動

異動月日	職名	氏名	就退区分	備考
53. 4. 1	研究員	梅村坦	就職	昇格
〃	専門員	Helen Hardacre	〃	
〃	研究員普及室長	外池明江	〃	
53. 4. 30	研究助手	森田嗣子	退職	
53. 5. 1	研究助手	市川靖子	採用	

D. 会 計 報 告

昭和53年度ユネスコ東アジア文化研究センター決算書

(昭和54年 3月31日現在)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
国庫補助金	70,266	經常費	46,573
ユネスコ援助金	1,619	人件費	41,695
財産収入	10	事務費	4,878
雑収入	849	事業費	26,171
		研究経費	11,484
		長期調査研究費	7,955
		一般調査研究費	3,529
		学术交流及ドキュメンテーション活動費	8,021
		出版物の作成費	6,666
計	72,744	計	72,744

品名	数量	単価	金額
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

5. 役職員名簿

昭和54年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりである。

- A. 所長 副所長
 榎 一 雄 護 雅 夫
- B. 運営委員

氏 名	現 職
石 田 雄	東京大学社会科学研究所所長
伊 藤 良 二	ユネスコアジア文化センター理事長
岩 生 成 一	日本学士院会員
梅 棹 忠 夫	国立民族学博物館館長
岡 野 澄	東京工業高等専門学校校長
大 崎 仁	文部省学術国際局審議官
尾 高 邦 雄	東京大学名誉教授
小山田 隆	国際交流基金専務理事
鹿子木 昇	アジア経済研究所所長
河 野 健 二	京都大学人文科学研究所所長
菊 地 勇次郎	東京大学史料編纂所所長
北 村 甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
河 野 六 郎	大東文化大学教授 財団法人東洋文庫理事
仙 石 敬	文部省学術国際局ユネスコ国際部部长
高 田 修	国立文化財研究所名誉所員
中 村 元	東方学院学院長
服 部 四 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
深 井 晋 司	東京大学東洋文化研究所所長
福 井 康 順	早稲田大学名誉教授
前 田 陽 一	国際文化会館専務理事 東京大学名誉教授
松 本 信 廣	慶応義塾大学名誉教授
山 本 達 郎	日本学士院会員 国際基督教大学教授 東京大学名誉教授
吉 川 幸次郎	日本芸術院会員 京都大学名誉教授
渡 部 忠 世	京都大学東南アジア研究センター所長

C. 顧問

氏名	現職
今日出海	国際交流基金理事長
篠沢公平	文部省学術国際局長 日本ユネスコ国内委員会事務総長
東畑精一	東京大学名誉教授
平塚益徳	日本ユネスコ国内委員会会長
前田充明	城西大学名誉学長

D. 参与

氏名	現職
青山秀夫	京都大学名誉教授
織田武雄	京都大学名誉教授
田村実造	京都大学名誉教授
都留重人	一橋大学名誉教授
長尾雅人	京都大学名誉教授
丸山真男	東京大学名誉教授
三上次男	東京大学名誉教授
宮崎市定	京都大学名誉教授
宮本正尊	東京大学名誉教授

E. 専門員

Helen Hardacre

F. 職員

職名	氏名
調査資料室長	生田 滋
普及室長	外池明江
庶務外事室長	松前義治
研究員	梅村 坦 本庄比佐子
研究助手	市川靖子 清水敏江 広瀬洋子
係員	直井靖夫 西山敬子

G. 臨時職員

昭和53年4月1日から昭和54年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は、以下のとおりである。

内野佳子, 片山章雄, 篠田得恵, 田中明良, 林俊雄, 森川孝典, 和田むつみ

財団
法人 東洋文庫年報 昭和53年度

昭和55年3月22日発行 非売品
発行者 東京都文京区本郷駒込 2-28-21
財団法人 東洋文庫
榎 一 雄
印刷者 東京都中央区湊2-2-4
株式会社 第一印刷所

発行所 東京都文京区本郷駒込 2-28-21
財団法人 東洋文庫

本書は昭和54年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部によって刊行されたものである。

